

「御所桜堀川夜討」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
△	一七三七	元文2	1/28~	竹 本 座	御所桜堀川夜討 五段続	大序（式）、初段（七、喜）、貳段（内匠、式、上総少掾）、三段（式、上総少掾）、道行（和泉・ツレ喜）、四段（七、内匠、喜、上総少掾）、五段（七）、大切出語り（和泉、内匠）。 ※祐田善雄氏の『近世邦楽年表 義太夫節之部』書入れ番付に拠る。 ※道行の位置が番付では三段目と四段目の間、正本では四段目の口と両者異なっている。	(不明)
△	一七四二カ	寛保2カ		江戸 辰 松 座	(御所桜堀川夜 討)	※『音曲猿口轡』竹本七太夫の条に「武烈天皇臈」の評に続いて「其後の御所桜二ノ切はお口拍子なさにほつこり共せざりしが、三ノ切はきつくよし。其後は御こんたんと見へて調子びくに声少ク……つね／＼と語給ふ故、素人が悦で古はりま殿に能にたと嬉しがつてお仕合。さる間三庄太夫は大ばね、師走の果に大入也」とある。「武烈天皇臈」と「御所桜堀川夜討」は近接し、その後ある期間において「三庄太夫五人嬢」などを語っているようである。「武烈天皇臈」が寛保元年冬、「三庄太夫五人嬢」が寛保3年12月と考えられるので、「御所桜堀川夜討」は寛保2年初の可能性が高い。しかし寛保元年末、または寛保3年再江戸下り以後、の可能性もありうる（『義太夫年表 近世篇』）。	
△	一七五五	宝暦5	6/25~	京 竹 本 座	御 所 桜	心の音調（沢、桐）。 ※「庭涼座舗操」の内。 ※段名、太夫役割は正本に、その他は番付に拠る。	きやうの君（金七）、はゞ（勘十良）。
	一七五五	宝暦5	11/16~	竹 本 座	(御所桜堀川夜 討)	静三味線ノ段（春、桐）。正俊骨接ノ段（政）。 ※「年忘座舗操」の内。	しのぶ（文十郎）。
	一七五九 ~ 一七六一	宝暦9 ~ 宝暦11	1	京 竹 本 座	御 所 桜	かんたんの枕（千賀、長門）。 ※「浪花土産年玉操 五冊綴」の内。	
	一七六〇	宝暦10	11/28~	竹 本 座	か ん た ん	(大和掾・春=藤蔵)。 ※「年和寿連座舗操」の内。	

「御所桜堀川夜討」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一七六三	宝暦13	12/9~	竹本座	御所桜堀川夜討 五段続	<p>初段（序 土佐、中 常、切口 文、切 志賀）、二段目（口 三根、跡 錦、中 土佐、切 政）、三段目（口 住、中 染、切 政）、四段目（道 行文・ツレ 三根、口 常、中 染・住、切 錦）、かんたんの枕（染、文）。</p> <p>※語り「附り主従の恋はかゞみのおもかげ名にたちはなの昔のいろかはむさしぼうがふたばのはだぎ／井二兄弟の情はあふぎのうらおもて名を取りし今やうの手くだはとさぼうが二まいぎしやう」。</p> <p>※大阪音楽大学蔵番付に「極月十八日打止」と書込みあり。祐田善雄氏所蔵番付フィルムにも、「此興行十二月十八日限りニテ竹本座一連江戸へ下ル」と書込みあり。『外題年鑑 明和版』に「極月十八日切当申年座中江戸表へ行」とあるのに照応する。</p> <p>※『浄瑠璃大系図』の竹本志賀太夫の条にこの興行に触れるが番付と矛盾しない。竹本三根太夫の条には「此時初めて芝居へ出座致し」とある。</p>	女房花の井（平蔵）、むさし坊弁慶（門三郎）、郷のきみ（大助）、おわさ（庫十郎）、じどう太郎（与八）、娘しのぶ（八十八）。
一七六五	明和2	6中旬	竹本座	御所桜	<p>骨接の段（綱、政）。</p> <p>※「御祭礼棚閣車操」の内。外題上に「難波」とある。</p> <p>※語り「しよもう／＼とござりまする故にはかに思ひ付ました所が相かはりませぬくり出し上りを祭りのじせつ取合御町中の宮々の名にかたどり御意に入まする御ひいきを以悪い所はよい／＼と御取はやし奉願上候／今月今日かんばんを指出し十日過より神事の間番組を極メ相勤まする古ルめかしきは八まん大名と御了簡遊され天神生玉お払迄もしよさやよふさやと押合へし合御見物ニ御出の程こひ願ひ奉り候」。</p> <p>※『浄瑠璃大系図』に「竹本政太夫 明和二年乙酉六月十五日より御祭礼棚閣車操此浄瑠璃を出して病氣にて引込居られしが日々重く相成」とある。</p> <p>※『浄瑠璃譜』に「同（明和2）年六月十五日初日、御祭礼棚閣車操。是大坂宮々の祭を浄瑠璃の寄物になし」とある。</p>	
一七七二	明和9	3/10~	いなり社内	御所桜堀川夜討	<p>四の切（かけ合 雛・重）。</p> <p>※この番付に見える「豊竹重太夫」は『大坂＝（馬へんに犬）珍馬』（天明3年正月序）に「先政太夫悴 後二重太夫と号ししばらくいなり芝居にて相勤しか終二病死す」とある人のことか（『義太夫年表 近世篇』）。</p>	きやうノ君（宇平次）。
				花扇部 鄴枕	出語り（内匠、町）。	
△	安永中期		堀江 豊竹此吉座カ	（花扇部 鄴枕）	※『闇の磔』に「近比はあまり出づかひをなされぬかんたんの出づかひはきつひ出来でござつた」とあるに拠る。	（重五郎）。
一七八一	天明1	7	北ほり江西ノ 芝居 竹田新松座	花扇部 鄴枕	（出かたり 政・中＝駒吉）。	

「御所桜堀川夜討」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一七九三	寛政5	3/15~	北の新地芝居	か ん た ん	※この興行の太夫は素人と見られる。	
一八〇三	享和3	4/8~	北ほり江市庭 西側芝居	御所桜堀川夜討	四だん目（口 湊、かけ合 巴・中）、けい事 かんたん（内匠・ツレ泉）。	きやうのきみ（東二）。
一八一〇	文化7	9/6~	御 霊 社 内	御所桜堀川夜討 大序より 三段目迄	初段（口 多賀、次 佐、おく 出雲、中 定、次 由良、切 伊達）、三段目（口 定、次 筆、跡 由良、おく 新、中 綾、切 鐘）、三段目（口 千代、おく 綾、中 鐘、切 弥=勝造）。 ※角書「夫婦の縁に引れし片袖／兄弟の縁に弾れし三絃」。	侍従女ぼう花の井（東十郎）、弁けい（三吾）、郷のきみ（才九郎）、おものおあさ（紋蔵）、じょう太郎（重五郎）、こし元しのふ（猪三郎）。
一八〇四 ~ 一八一八頃	文化年 中		江戸 薩 摩 座	堀 川 夜 討	五段目（ふし事 下り 岡・ツレ 組=庄治郎）。 ※同番付内の別の位置には『御所桜堀川夜討』『五段目ふし事 かんたん 竹本岡太夫・ツレ 竹本組太夫・三弦 野沢庄治郎・野沢音蔵』とある。	
一八二六	文政9	7/15~	御 霊 境 内	御所桜堀川夜討 大序 八段返しより 三段目迄	初段 六原のだん（七、富士）、くらま山のだん（佐馬）、福井村のだん（絹）、石ばし山のだん（歌門）、矢背のだん（源）、高砂のだん（重）、あはぢしまの段（筆）、此間八ヶ年立 橋弁慶の段（文字・ワキ 政子）、此間十ヶ年立 三段目 千人切のだん（千代）、粟田口のだん（口 多見、おく 政子、吉田兵吉 水中にて早がわり相つとめ申候）、三段目 伊勢三郎住家の段（口 美咲、切 染）、室町のだん（絹）、侍従太郎やかたのだん（口 源、切 筆）。 ※角書「主従の恋／兄弟の情」。 ※語り「鏡の面影名に橋のむかしのいろ香は武蔵坊が二葉の肌着／扇の裏表名をとりし今やうの手くたは土佐坊が三枚起請」。 ※六代目竹本染太夫旧蔵番付の書込みに「此年美吉良実太夫ト改メ」 「此時実太夫役なしさゆをくむ計 重太夫病氣此時は給金日残りいふ事なし」とある。	花の井（辰造）、べんけい（兵吉）、郷の君（虎象）、おあさ（辰五郎）、侍従太郎（弥三郎）、しのぶ（辰助）。
一八二六	文政9	11/15~	堺 堺宿院芝居	御所桜堀川夜討 大序より 三段目迄	初段 西八条の段（実、栄）、くらま山のだん（卯）、福井村のだん（源）、ふし木隠れの段（杣）、矢背の段（実）、高砂舟の段（の）、淡路島の段（春）、此間十八ヶ年立 橋弁慶の段（源）、三段 千人切のだん（卯）、粟田口の段（杣）、伊勢ノ三郎住家のだん（口 美口、切 染）、三段 室町の段（の）、侍従太郎館のだん（口 七、切 筆）。 ※角書「武蔵坊が二葉の肌着／土佐坊が二枚の記請」。 ※番付の紋下欄に「座本 町太夫改 竹本春太夫」とある。 ※『浄瑠璃大系図』竹本春太夫（代数外。八十太夫）条に「堺住人春太夫事は三代目春太夫の高弟成共一向芝居出勤なく夫故播磨大掾より右名前借に遣し暫らく借受度由乍併堺へ出勤致さば名前を替て参る由約定有て弥借受（中略）十一月十五日堺宿院芝居にて興行是は前に出せし如く堺にては出勤成がたくお休み」とある。	花の井（新四）、べんけい（新吾）、郷の君（源蔵）、おあさ（辰五郎）、侍従太郎（東十郎）、しのぶ（源蔵）。

「御所桜堀川夜討」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八二八	文政11	4	伊勢 勢州古市芝居	御所桜堀川夜討	御てんの段（口 鐘、切 筆）。	花の井（三吾）、べんけい（与吉）、郷の君（こま吉）、おはさ（伝七）、侍従太郎（弥三郎）、しのぶ（勝造）。
一八三〇	文政13	閏3	京 四条北側大芝居	御所桜堀川夜討 大序ヨリ 三段目迄	大序（巴津、百合、筆戸）、初段 宿やのたん（巴勢、磯、鐘、当能、三津）、弐段目 粟田口のたん（当賀、出羽、錦、磯）、三段目（出羽、鐘、筆）。	花の井（伊十郎）、弁けい（藤井弥三郎）、郷の君（豊松弥三郎）、おわさ（辰造）、侍従太郎（東十郎）、しのぶ（勇之介）。
一八三一	天保2	7/29	稲 荷 境 内	花 扇 邯 鄲 枕	ふし事（麓・ツレ 湊）。	
△ 一八三一	天保2	11/2	江戸 千 住	（御 所 桜）	二段目。 ※『染太夫一代記』に拠る。	
一八三五	天保6	3	北ほり江市の 側芝居	御所桜堀川夜討 大序より 三段目まで	六原御所のたん（口 喜代、おく 組）、ふし木隠のたん（登志）、福井村のたん（当磨）、くらま山のたん（信）、矢背のたん（鞆）、清水のたん（多満）、播州海のたん（筆の）、淡路しまのたん（筆）、大序より序切迄八だんかへしまくなし 二段目 千人供養ノ段（多満）、粟田口のたん（滝）、伊勢ノ三郎住家の段（口 要、切 阿蘇）、三段目 堀川御所の段（口 滝、おく 入）、侍従太郎館のたん（口 筆の、切 筆）。	花の井（新三）、べんけい（新吾）、郷の君（篤次郎）、おわさ（国八）、侍従太郎（清七）、しのぶ（国五郎）。
一八四一	天保12	閏1/13~	稲荷社内東芝居	御所桜堀川夜討	三段目（恵美、越路）。 ※豊竹古鞠太夫（山城少掾）の番付書込みに「御所桜三ノ切ヲ語ル越路太夫トアルハ元勝鳳ト云クシ三弦方ニテ此度太夫ト成ル是越路名跡ノ初代也此人ノ悴市治郎ト云ウク初代文三ノ門人ニテ此度父名ナル勝鳳ヲ名乗り下筆ノ二枚目ニ居ラル、此師後ノ三代目野沢吉兵衛ト成リテ名人也彼二代目越路太夫后ノ撰津大掾ヲ仕立上ゲラレシハ此師ノ事デ有ル」とある。 ※『浄瑠璃大系図』によればこの時勝鳳は父の越路太夫を弾く。	花の井（重五郎）、むさし坊弁慶（徳造）、郷ノ君（八十八）、おあさ（辰造）、侍従太郎（国五郎）、しのぶ（新五郎）。
一八四五	弘化2	1	道頓堀竹田芝居	御 所 桜	堀川館の段（生駒）、侍従太郎館のたん（紅梅、八重）。	太郎奥方（咲造）、弁慶（文三）、郷の君（歌六）、おわさ（辰造）、侍従太郎（徳蔵）、娘しのぶ（重太郎）。
一八四八	弘化5	2/2~	名古屋 清寿院御境内	御 所 桜	三段目。 ※子供浄瑠璃。	
一八五一	嘉永4	1	道頓堀竹田芝居	御所桜堀川夜討	侍従太郎館の段（口 佐賀、切 八重）。	太郎女房（市松）、弁けい（文三）、おわさ（新蔵）、侍従太郎（新五郎）、しのぶ（市松）。
一八五一	嘉永4	4	京 宮川町芝居	御所桜堀川夜討	侍従太郎屋しきの段（和国、八重）。 ※座本上村源之丞（淡路）。	花の井（幾太郎）、弁けい（才馬）、おわさ（辰造）、侍従太郎（忠七）、しのぶ（松江）。

「御所桜堀川夜討」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八五一	嘉永4	10	名古屋 清寿院御境内	御所桜堀川夜討	侍従太郎屋敷（口 諏訪、切 八重）。	花の井（幾右衛門）、武蔵坊弁けい（玉椿）、郷のきみ（信造）、おわさ（卯之助）、侍従太郎（三之助）、しのぶ（松江）。
△	一八五二	嘉永5	9/15～	法善寺	（御所桜） 御殿（筆＝弥七）。 ※『弥太夫日記』に拠る。	
	一八五五 ～ 一八五六頃	安政2 ～ 安政3頃	京 蛭子屋吉郎兵衛座	御所桜	夜討（土佐＝広八）。	
	一八五八	安政5	5/5	京 四条道場北小家	御所桜堀川夜討	三段目（麓＝庄治郎）。 ※「かけゑ」浄瑠璃。
△	一八五九	安政6	1/2	紀州 和歌山紺屋町	（御所桜）	三（伏見）。 ※『弥太夫日記』に拠る。
△	一八五九	安政6	9/4	紀州 道成寺門前小家	（御所桜）	三段目（筆＝吉兵衛）。 ※『弥太夫日記』に拠る。 ※二見知加蔵『摂津大掾出演手控』はこの興行について「九月朔日初日に而十日之間日高道成寺にて興行」と記すので、9月朔日より始まっていたとみなされる（『義太夫年表 近世篇』）。
△	一八五九	安政6	9/5	紀州 道成寺門前小家	（御所桜）	三（筆）。 ※『弥太夫日記』に拠る。
△	一八五九	安政6	9/22	紀州 田辺本町	（御所桜）	三（筆）。 ※『弥太夫日記』に拠る。
△	一八五九	安政6	10/6	紀州 湯浅倉町真楽寺	（御所桜）	三段目（筆）。 ※『弥太夫日記』に拠る。
△	一八六〇	安政7	1/2	道頓堀法善寺 小家	（御所桜）	〔三〕堀川夜討（土佐＝玉助）。 ※〔三〕は東京藝術大学附属図書館蔵「近世邦楽年表基本カード」に、その他は『近世邦楽年表 義太夫節之部』に拠る。
△	一八六〇	万延1	5/15	淡州 佐野	（御所桜）	三（八重＝清治）。 ※『弥太夫日記』に拠る。
△	一八六〇	万延1	6/3～4カ	淡州 佐野	（御所桜）	※『弥太夫日記』に拠る。
	一八六七	慶応3	5/5～	京 四条道場北ノ 小家	御所桜	三段目（相模＝吉兵）。

「御所桜堀川夜討」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八六七	慶応3	12/8~	京 四条北側芝居	御 所 桜	三段目（相模＝時造）。	
一八七四	明治7	4	竹 田 芝 居	御所桜堀川夜討	侍従太郎やしきの段（呂篤改 呂）。	侍従太郎奥方（小辰）、武蔵坊弁慶（光造）、糸の君（為十郎）、女房お浅（門造）、侍従太郎（勢造）、娘しのぶ（兵造）。
一八七五	明治8	5	名古屋 亀の家座	（御 所 桜）	三（蟻＝伝吉）。 ※「浄瑠璃大寄」の内。	
一八七五	明治8	11	竹 田 芝 居	御 所 桜	三段目（呂＝松太郎）。 ※素浄瑠璃。	
一八七五	明治8	12	名古屋 末 広 座	（御 所 桜）	三（勢尾）。 ※太夫 豊竹駒太夫。素浄瑠璃カ。	
一八七六	明治9	5	座摩裏門新席	御 所 桜	三段目（蔵六軒＝丑之助）。 ※浄瑠璃糸繰り 山本三の助一座。	
一八七六	明治9	5	元長州屋敷小家	御所桜堀川夜討 三段目	侍従太郎屋舗之段（浜尾、呂）。 ※浄瑠璃身振。	
一八七六	明治9	11	松 嶋 芝 居	御所桜堀川夜討	弁慶使者の段（中 実、切 重）、堀川御所夜討の段（三根）。 ※「十一月十三日ヨリ廿五日間」（『義太夫年表 明治篇』）。 ※「御所桜堀川夜討 弁慶使者ノ段」ニツイテ文楽翁付作シ大落シノ後へ土佐坊昌俊ノ出ルヨウニ書キ添エル（『義太夫年表 明治篇』）。	妻花の井（玉之助）、武蔵坊弁慶（玉助）、卿の君（小玉）、おわさ（東十郎）、侍従太郎（亀松）、しのぶ（小兵吉）。
一八七八	明治11	1/1~	京都 道場芝居北隣 松 楽 軒 席	御 所 桜	三段目（桐＝弥六）。	
一八七八	明治11	1	名古屋 愛 栄 座	（御 所 桜）	※太夫 竹本越路太夫。素浄瑠璃カ。	
一八七九	明治12	3	大江橋北詰席	御所桜堀川夜討 三段目	侍従太郎館のだん（中 富、切 綾瀬）。	花の井（冠四）、弁慶（駒十郎）、京の君（辰十郎）、女房おあき（辰太郎）、侍従太郎（勢造）、しのぶ（友造）。
一八七九	明治12	4	御霊土田席	御所桜堀川夜討 三段目	朱雀野のだん（千馬）、侍従太郎館のだん（小組、時）、夜討のだん（楠、氏、時嶋）。 ※『中西仁智雄コレクション 浄瑠璃番付写真集』掲載の番付は、「夜討の段」を（時嶋、氏、浜朝）とする。	奥方花の井（喜十郎）、武蔵坊弁慶（光造）、卿の君（辰助）、おわさ（才治）、侍従太郎（源之助）、こしもとしのぶ（金之助）。

「御所桜堀川夜討」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八八一	明治14	5	京都 せいぐわんじ 本堂前定席 夷谷座	御所桜堀川夜討 二冊	義経館の段（亀尾＝友三郎）、弁慶使者のだん（是＝友三郎）。 ※上るりみぶり。	
一八八二	明治15	9下旬	名古屋 真本座	（御所桜）	弁慶上使のだん（綱代＝市十郎）。 ※浄瑠璃身振。	
△一八八八	明治21	8/3	名古屋 千歳座	（御所桜）	弁慶上使場（綾＝勝鳳）。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
一八八九	明治22	5/1～	彦六座	御所桜堀川夜討 三段目	太郎やしきのだん（小隅、源）。	花の井（門造）、武蔵坊弁慶（光造）、卿の君（亀登）、おわさ（三吾）、侍従太郎（玉松）、娘しのぶ（小三）。
△一八八九	明治22	8/4	京都 北側演劇場	（御所桜）	三段目（常子改め さの＝浜之助）。 ※文楽座、越路一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△一八八九	明治22	12/13 12/24 12/25	名古屋 千歳座	（御所桜）	三段目（さの＝小正）。 三段目（巴勢＝寛次郎）。 三段目（さの＝小庄）。 ※竹本越路太夫・豊沢広介一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△一八九〇	明治23	2/21	名古屋 千歳座	（御所桜）	弁慶上使の段（七五三＝友松）。 ※大阪彦六座、朝太夫・広作一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△一八九〇	明治23	3/21	京都 南劇場	（御所桜）	三段目（七五三＝友松）。 ※大坂彦六座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△一八九〇	明治23	4/26	名古屋 千歳座	（御所桜）	三段目（此）。 ※素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
一八九〇	明治23	6	御霊文楽座	御所桜堀川夜討	弁慶使者のだん（咲代、相生＝八兵衛）。 ※「六月十三日より六月二十六日まで十四日間」（『義太夫年表 明治篇』）。	妻花の井（玉五郎）、弁慶（玉造）、郷の君（紋治郎）、おわさ（玉治）、侍従太郎（玉助）、こしもとしのぶ（卯三郎）。
△一八九〇	明治23	12/5	名古屋 千歳座	（御所桜）	弁慶の上使（七五三）。 ※竹本組太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△一八九一	明治24	1/14	名古屋	（御所桜）	弁慶上使ノ段（さの＝小庄）。	

「御所桜堀川夜討」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
		1/15	末 広 座		弁慶上使（越路＝広助）。 ※竹本越路太夫・豊沢広助一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九一	明治24	1/21	京都 北 座	(御所桜) 弁慶上使（呂）。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一八九一	明治24	8/15 8/19	京都 北 座	(御所桜堀川夜 討) 三段目（呂）。 三段目（巴勢）。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
	一八九一	明治24	9/15～	彦 六 座	御所桜堀川夜討 上中下	侍従太郎館のだん（山登、組）、堀川御所の段（春子、源）、夜討の 段（組の）。 妻花の井（小三）、武蔵坊弁慶（光造）、卿の 君（小三）、おあさ（亀松）、侍従太郎（玉 松）、こしもとしのぶ（亀当）。
△	一八九二	明治25	1/24	京都 北 座	(御所桜堀川夜 討) 弁慶上使（さの＝小庄）。 ※竹本越路太夫・豊沢広助一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一八九二	明治25	7/21 7/22 7/26	名古屋 千 歳 座	(御所桜) 三段目（呂瀬＝鶴吉）。 三段目（呂＝勝鳳）。 三段目 弁慶の上使（相生＝鶴太郎）。 ※文楽・彦六両座合併「大阪浄瑠璃」の内。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九二	明治25	8/15	名古屋 笑 福 座	(御所桜) 三段目 弁慶の上使（相生）。 ※相生太夫・久太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九二	明治25	8/17	名古屋 千 歳 座	(御所桜) 弁慶上使の段（靱（ママ））。 ※竹本朝太夫・豊竹新靱太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九二	明治25	8/18	京都 北 座	(御所桜) 三段目 弁慶上使の段（越路＝広助）。 ※竹本越路太夫・豊沢広助・其外文楽一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一八九三	明治26	1/3	東京 木挽町厚生館	(御所桜) 三段目（生駒＝伊助）。 ※義太夫亀鑑大演習。 ※演芸資料選書・5『東京の人形浄瑠璃』に拠る。	
△	一八九三	明治26	3/12	京都 北 座	(御所桜) 三段目（相生）。 ※文楽一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一八九三	明治26	8/2 8/6 8/10	名古屋 末 広 座	(御所桜) 三段目 弁慶の上使（呂＝勝鳳）。 三段目（呂尾＝才六）。 三段目（相生＝勝右衛門）。 ※竹本越路太夫・豊沢広助一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	



西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
△	一八九三	明治26	8/16	京都南座	(御所桜)	三段目(さの)。 ※越路一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一八九三	明治26	10/13	名古屋音羽座	(御所桜)	三段目(殿母=伝四)。 ※竹沢弥七一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九三	明治26	11/2	名古屋音羽座	(御所桜)	三段目(殿母)。 ※竹沢弥七一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九四	明治27	2/1	京都南座	(御所桜)	三段目(さの)。 ※越路一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一八九四	明治27	2/11 2/14	京都南座	(御所桜)	(七五三)。 三段目(雲龍齋)。 ※彦六一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一八九四	明治27	4/14~	東京新声館	(御所桜)	三段目 弁慶上使の段(綾路=豊市、綾瀬=豊吉)。 ※演芸資料選書・5『東京の人形浄瑠璃』に拠る。	(不明)
△	一八九四	明治27	7/15	名古屋新守座	(御所桜)	三段目(さの=叶)。 ※綾太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九四	明治27	7/22	名古屋宝生座	(御所桜)	三段目(さの)。 ※綾太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九四	明治27	12/18・20	京都南座	(御所桜)	三段目(呂)。 ※呂太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一八九五	明治28	8/1	京都南座	(御所桜)	三段目(呂=叶)。 ※呂太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一八九五	明治28	8/11	名古屋千歳座	(御所桜)	三段目(呂=叶)。 ※大坂文楽、豊竹呂太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九五	明治28	8/17	名古屋千歳座	(御所桜)	三段目(さの)。 ※呂太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九五	明治28	9/22	東京新声館	(御所桜堀川夜討)	弁慶上使(緑=惣太郎)。 ※第2回義太夫大会。 ※演芸資料選書・5『東京の人形浄瑠璃』に拠る。	

「御所桜堀川夜討」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八九五	明治28	9	御霊文楽座	御所桜堀川夜討	弁慶上使のだん（中高尾、切呂）、夜討のだん（跡尾上）。 ※「九月廿九日（廿三日）ヨリ卅七（卅八）日間」（『義太夫年表 明治篇』）。	妻花の井（亀松）、武蔵坊弁慶（玉助）、郷の君（玉五郎）、お浅（紋十郎）、侍従太郎（玉治）、むすめしのぶ（卯三郎）。
△	一八九六	明治29	2/9	名古屋千歳座	（御所桜） 三段目（七五三）。 ※竹本越太夫・七五三太夫・新朝太夫・菅太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九六	明治29	2/18	名古屋千歳座	（御所桜） 弁慶上使（新朝）。 ※竹本越太夫。前項の二の替り。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
	一八九六	明治29	3/1～	稲荷座	御所桜堀川夜討 弁慶使者のだん（雲龍）。 ※「雲龍太夫ハ阿波ノ力士雲龍」（『義太夫年表 明治篇』）。	妻花の井（三十郎）、武蔵坊弁慶（兵吉）、卿の君（宗七）、おわさ（玉米）、娘しのぶ（玉松）。
△	一八九六	明治29	4/5	東京新声館	（御所桜） 弁慶上使（若浜＝勇三）。 ※義太夫大演芸会。 ※演芸資料選書・5『東京の人形浄瑠璃』に拠る。	
△	一八九六	明治29	4/16	京都坂井座	（御所桜） 三段目（さの＝叶）。 ※さの太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一八九六	明治29	7/22 8/1	京都南座	（御所桜） 三段目（呂＝叶）。 三段目（さの）。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一八九六	明治29	8/5 8/10	名古屋末広座	（御所桜） 三段目 弁慶上使の段（伊達＝友松）。 弁慶上使の段（隅栄＝団左）。 ※大隅太夫・団平一座。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九六	明治29	10/1	京都南座	（御所桜） 三段目（角）。 ※大隅太夫・団平一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一八九七	明治30	3/16	名古屋音羽座	（御所桜） 弁慶上使（相生＝大造）。 ※竹本相生太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九七	明治30	7/11	名古屋千歳座	（御所桜） 三段目（生島＝仙昇）。 ※竹本組太夫・住太夫・朝太夫・伊達太夫合併大一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九七	明治30	7/27 8/1	京都南座	（御所桜） 三段目（呂＝叶力）。 三段目（染＝勝蔵）。 ※越路一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一八九七	明治30	10/28	京都	（御所桜） 弁慶使者の段（高尾）。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
		11/2	南座		三(小さな)。 ※竹本さの太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一八九八	明治31	東京新声館	(御所桜堀川夜討)	三段目(大阪上り 雲竜=丑之助)。 ※演芸資料選書・5『東京の人形浄瑠璃』に拠る。	(不明)
△	一八九八	明治31	京都南座	(御所桜)	(七五三)。 ※竹本文字大夫(佐野太夫改め)・竹本文太夫・竹本七五三太夫・竹本高尾太夫等の一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一八九八	明治31	名古屋御園座	(御所桜)	弁慶上使(文字=猿系・ツレ 卯三郎)。	
		8/23		(御所桜堀川夜討)	弁慶上使(さ字=猿吉)。 ※大阪文楽座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九八	明治31	弁天座	(御所桜)	三(新靱)。 ※稻荷座連中。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
△	一八九八	明治31	中劇場	(御所桜)	三(七五三)。 ※素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
	一八九八	明治31	御霊文楽座	御所桜堀川夜討	弁慶上使のだん(口 小さな、文字)。 ※「十月十七日ヨリ十一月十二日マデ廿六日間」(『義太夫年表 明治篇』)。	花の井御前(三吾)、武蔵坊弁慶(玉助)、卿の君(助太郎)、おわさ(紋十郎)、侍従太郎(玉松)、娘信夫(栄三)。
△	一八九八	明治31	名古屋御園座	(御所桜)	三段目(弥生=団友)。 弁慶上使(菊=卯三郎)。 ※大阪 大隈(ママ)一座・東京 朝太夫一座による「京阪合併浄瑠璃」の内。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
		12/9 12/17				
	一八九九	明治32	明楽座	御所桜堀川夜討	侍従太郎館のだん(菊、生嶋)。	花の井(紋三郎)、武蔵坊弁慶(玉松)、卿の君(登治郎)、おわさ(玉米)、侍従太郎(栄寿)、娘しのぶ(琴糸)。
△	一八九九	明治32	名古屋末広座	(御所桜)	三段目(品=吉八)。 弁慶上使(角)。 ※大阪稻荷座若手一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
		3/8 3/14				
△	一八九九	明治32	京都南座	(御所桜)	弁慶上使(呂=勝鳳)。	
		7/22 7/29			弁慶上使(七五三=仙昇)。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	

「御所桜堀川夜討」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一八九九	明治32	7/25	東京 歌舞伎座	(御所桜) 三(伊達=友松)。 ※素浄瑠璃。 ※『歌舞伎座百年史』に拠る。	
△	一八九九	明治32	8/5	京都 岩神座	(御所桜) 三段目(七五三)。 ※素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一八九九	明治32	9/5	名古屋 末広座	(御所桜) 弁慶上使(品)。 ※住太夫・春子太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九九	明治32	12/25	京都 南座	(御所桜) 三段目(七五三=仙昇)。 ※竹本越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇〇	明治33	7/22	京都 南座	(御所桜) 弁慶使者(文字)。 三段目(呂)。 ※文楽座、越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇〇	明治33	8/2	京都 南座	(御所桜) 弁慶使者(文字)。 三段目(呂)。 ※文楽座、越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇〇	明治33	8/5	名古屋 末広座	(御所桜) 弁慶上使(源)。 ※大阪文楽座、竹本文字太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇〇	明治33	9/8~14カ	京都 千本座	(御所桜) 三段目。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	(不明)
△	一九〇〇	明治33	12/2	名古屋 末広座	(御所桜) 弁慶上使(生島=浜右衛門)。 ※明楽座一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇一	明治34	2/1・4	名古屋 御園座	(御所桜) 三(長子=松之助)。 ※竹本組太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇一	明治34	4/10	京都 弁天座	(御所桜) 三段目(路尾)。 ※素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇一	明治34	5	御霊文楽座	御所桜堀川夜討 弁慶上使のだん(中津ばめ、切文字)。 ※「五月廿五日ヨリ七月七日マデ」(『義太夫年表 明治篇』)。	花井御前(玉治)、武蔵坊弁慶(玉助)、卿の君(三吾)、お浅(紋十郎)、侍従太郎(多為蔵)、娘信夫(玉六)。
△	一九〇一	明治34	6/9	名古屋 千歳座	(御所桜) 弁慶上使の段(此)。 三段目(此)。 ※伊達太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇一	明治34	6/20	名古屋 千歳座	(御所桜) 弁慶上使の段(此)。 三段目(此)。 ※伊達太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇一	明治34	7/16	名古屋 歌舞伎座	(御所桜) 弁慶上使(文字=吉弥)。 三段目(さの)。 ※越路太夫・文字太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇一	明治34	7/23	名古屋 歌舞伎座	(御所桜) 弁慶上使(文字=吉弥)。 三段目(さの)。 ※越路太夫・文字太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
△	一九〇一	明治34	8/2	京都 南座	(御所桜)	弁慶上使(文字)。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇一	明治34	8/22	名古屋 末広座	(御所桜)	弁慶上使(生島)。 ※大坂明楽座、竹本大隅太夫・鶴沢叶一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇一	明治34	12/8 12/11	名古屋 末広座	(御所桜)	弁慶上使(新朝=市治郎)。 三段目(緑=猿之助)。 ※住太夫・朝太夫ほか。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇一	明治34	12/13	東京 歌舞伎座	(御所桜)	三段目(鑠=寛之助)。 ※大隅太夫一座。素浄瑠璃。 ※『歌舞伎座百年史』に拠る。	
△	一九〇二	明治35	2/15 2/20	名古屋 御園座	(御所桜)	弁慶上使(文字=吉弥)。 三段目(文=鶴次郎)。 ※大阪文楽座、文字太夫・吉弥一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇二	明治35	4/5	名古屋 末広座	(御所桜)	弁慶上使(七五三=新左衛門)。 ※竹本七五三太夫・生島太夫・さの太夫・豊沢新左衛門・仙十郎・外十数名。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇二	明治35	8/3 8/10	京都 南座	(御所桜堀川夜討)	御所(さの=団七)。 弁慶(呂=猿系)。 ※素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇二	明治35	8/24	京都 歌舞伎座	(御所桜)	弁慶上使(生島)。 ※大隅太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇二	明治35	8/3以降	東京 明治座	(御所桜堀川夜討)	弁慶上使。 ※桐竹紋十郎一座に竹本伊達太夫、常磐津林中が加わった一座。 ※『明治座物語』に拠る。	(不明)
△	一九〇二	明治35	9/2	京都 岩神座	(御所桜)	三 弁慶上使(生島)。 ※大隅太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇二	明治35	12/17 12/20 12/23	名古屋 千歳座	(御所桜堀川夜討)	弁慶上使(染=小団治)。 (御所桜) 三(加賀)。 (御所桜堀川夜討) 弁慶上使(此路)。	

「御所桜堀川夜討」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
		12/24		(御所桜)	三(谷代)。 ※「大坂文楽明楽合併大浄瑠璃」の内。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇二	明治35	12/22	京都夷谷座	(御所桜) 弁慶上使(新靱)。 ※組太夫一座。素浄瑠璃。 ※「京都日出新聞」(12月23日)他の記事に21日で興行終了とあり、実際には上演されなかったか。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
	一九〇三	明治36	1/1~	明楽座	御所桜堀川夜討 侍従太郎館のだん(口杉、切春子)。 ※「コノ興行限り明楽座瓦解」(『義太夫年表 明治篇』)。	花の井(琴糸)、武蔵坊弁慶(玉治郎)、京の君(岩吉)、女房おわさ(清十郎)、侍従太郎(兵三)、娘しのぶ(玉子)。
△	一九〇三	明治36	3/12	名古屋歌舞伎座	(御所桜堀川夜討) 弁慶上使(鷹=門之助)。 ※「大坂文楽座竹本越路太夫改め竹本春太夫門人若手一座の浄瑠璃」(「新愛知」3月10日)。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇三	明治36	8/20	名古屋御園座	(御所桜) 三(源子=亀太郎)。 ※竹本文字太夫改三代目竹本越路太夫改名披露。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇三	明治36	9/6	京都南座	(御所桜堀川夜討) 弁慶上使(越路=吉弥)。 ※文字太夫改め越路太夫・むら太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇三	明治36	9/13	京都千本座	(御所桜堀川夜討) 弁慶(さ路)。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇三	明治36	12/3	名古屋千歳座	(御所桜) 弁慶上使(生嶋)。 ※大坂明楽一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
	一九〇四	明治37	4	御霊文楽座	御所桜堀川夜討 弁慶上使のだん(中源子、切染)、夜討のだん(谷栄、津直、津国、津磨)。 ※「四月廿日ヨリ五月廿三日マデ卅三日間」(『義太夫年表 明治篇』)。	花の井(玉五郎)、武蔵坊弁慶(玉治)、卿の君(紋之助)、お阿さ(玉助)、侍従太郎(助太郎)、娘信夫(紋太郎)。
△	一九〇四	明治37	7/17 7/23	名古屋御園座	(御所桜) 弁慶上使(越路)。 弁慶上使(時)。 ※越路太夫・文太夫・南都太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇四	明治37	8/3	京都歌舞伎座	(御所桜堀川夜討) 弁慶上使(源子=勝太郎)。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇四	明治37	8/14 8/16	京都千本座	(御所桜) 弁慶上使(源子)。 弁慶上使(越路)。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九〇四	明治37	名古屋 歌舞伎座	(御所桜)	三段目(鏝)。	
					三段目(隅の)。 ※竹本大隅太夫・伊達太夫・長子太夫・鏝太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇四	明治37	東京 歌舞伎座	(御所桜)	弁慶上使(越路=吉弥)。	
					弁慶上使(さ路=吉助)。 ※大阪文楽義太夫一座。素浄瑠璃。 ※『歌舞伎座百年史』に拠る。	
△	一九〇四	明治37	角座	(御所桜堀川夜討)	弁慶上使(伊達)。 ※素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
△	一九〇五	明治38	京都 朝日座	(御所桜堀川夜討)	弁慶上使(角=太郎)。	
					侍従太郎内(米=広市)。 ※伊達太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇五	明治38	名古屋 新守座	(御所桜)	弁慶上使の段(越路=吉弥)。 ※竹本住太夫・竹本越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇五	明治38	京都 岩神座	(御所桜)	三(米)。	
					(御所桜堀川夜討) 弁慶上使(葉)。 ※竹本伊達太夫・竹本長子太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇五	明治38	名古屋 新守座	(御所桜)	弁慶上使(千代)。	
					弁慶上使(文)。 ※竹本文太夫一座による「大阪／文楽若手浄瑠璃」の内。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇五	明治38	東京 歌舞伎座	(御所)	三(伊達=市次郎)。	
					(隅野=清五郎)。	
					(米=広市)。 ※竹本大隅太夫一座。素浄瑠璃。 ※『歌舞伎座百年史』に拠る。	
△	一九〇五	明治38	京都 南座	(御所桜)	三(源子)。 ※大阪文楽座青年連、南部太夫・猿糸一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇五	明治38	京都 千本座	(御所桜)	三(源子)。 ※南部太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇五	明治38	名古屋 千歳座	(御所桜)	三段目(源子)。 ※「大阪両座撰抜若手揃浄瑠璃」の内。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	

## 「御所桜堀川夜討」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
△	一九〇五	明治38	12/11	京都 明治座	(御所桜)	三(鏝)。 ※摂津大掾・大隅太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇六	明治39	2/3	京都 南座	(御所桜堀川夜討)	弁慶使者(さの)。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇六	明治39	6/28	天満座	(御所桜)	弁慶上使(源)。 ※青年太夫による素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
	一九〇六	明治39	7/1~	堀江座	御所桜堀川夜討	侍従太郎館のだん(中 鏝、切 伊達=*市治郎)。	武蔵坊弁慶(玉治)、卿の君(東助)、おわさ(箕助)、侍従太郎(紋三)、しのぶ(玉市)。
△	一九〇六	明治39	7/26	京都 歌舞伎座	(御所桜)	三(源)。 ※大隅太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇六	明治39	8/6 8/9 8/12	名古屋 歌舞伎座	(御所桜)	弁慶上使(組栄)。 弁慶上使(津ばめ=勝太郎)。 三(一子)。 ※竹本津ばめ太夫ほかによる「大阪若手浄瑠璃」の内。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇六	明治39	8/8	京都 千本座	(御所桜)	三(源)。 ※南部太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇六	明治39	8/9	名古屋 末広座	(御所桜)	弁慶上使(越路=吉弥)。 ※大阪文楽座、竹本越路太夫一座。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇七	明治40	8/7	京都 南座	(御所桜堀川夜討)	弁慶上使(七五三=寛次郎)。 ※摂津大掾一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇七	明治40	8/18 8/20	京都 大宮座	(御所桜)	三(米)。 三(さの)。 ※南部太夫・源太夫・さの太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇七	明治40	12/11	名古屋 御園座	(御所桜)	弁慶上使の段(七五三=綱造)。 ※大阪文楽座、竹本越路太夫・メ太夫・南部太夫・時太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇七	明治40	12/20	名古屋 末広座	(御所桜)	弁慶上使(染=広作)。 ※「大阪文楽/堀江両座合併大浄瑠璃」の内。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	



西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
△	一九〇八	明治41	2/1	南地演舞場	(御所桜)	(源)。 ※第1回浄瑠璃奨励若葉会。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
△	一九〇八	明治41	2/25	京都歌舞伎座	(御所桜)	弁慶上使(源)。 ※大阪文楽・堀江両座合併若手連素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇八	明治41	4/13	名古屋末広座	(御所桜)	三段目 弁慶上使の段(静=団友)。 ※「大坂堀江座大浄瑠璃」の内。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇八	明治41	4/18	京都大宮座	(御所桜)	三(源)。 ※大阪文楽座若手一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇八	明治41	5/21~22カ	南地演舞場	(御所桜)	(鏝=竹三郎)。 ※軍艦松島義損演芸会。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
△	一九〇八	明治41	7/12	名古屋御園座	(御所桜堀川夜討)	弁慶上使(越路=吉兵衛)。 ※大阪文楽一座。竹本摂津大掾名古屋一世一代。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇八	明治41	8/4	京都南座	(御所桜)	弁慶使者(源)。 ※大隅太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇八	明治41	9/6	京都南座	(御所桜)	三(七五三=綱造)。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇八	明治41	9/14	京都岩神座	(御所桜)	四(源)。	
			9/17		(御所桜堀川夜討)	弁慶上使(二葉)。 ※文太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
	一九〇八	明治41	11/1~	堀江座	御所桜堀川夜討	弁慶上使のだん(中三笠、切大嶋=竹三郎、此所人形出遣いにて御覧に入申候)。 ※三味線は『浄瑠璃雑誌』第71号に拠る。	妻花の井(政亀)、武蔵坊弁慶(紋三)、卿の君(寅市)、おあさ(小兵吉)、侍従太郎(東吉)、こし元信夫(玉吉)。
△	一九〇八	明治41	12/12	名古屋御園座	(御所桜)	弁慶上使(生島改大島=竹三郎)。 ※「大阪文楽・堀江合併大浄瑠璃」の内。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇八	明治41	12/14	東京歌舞伎座	(御所)	三(越路=吉兵衛)。 ※竹本摂津大掾一座。素浄瑠璃。 ※『歌舞伎座百年史』に拠る。	
△	一九〇八	明治41	12/23	京都歌舞伎座	(御所桜)	三(源=勝太郎)。 ※大阪文楽若手一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九〇九	明治42	名古屋 千歳座	(御所桜堀川夜討)	弁慶上使(組栄)。	
		7/22			(御所桜)	(小国)。 ※竹本伊達太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。
△	一九〇九	明治42	名古屋 御園座	(御所桜堀川夜討)	弁慶上使(古靱)。 ※大阪文楽座、越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇九	明治42	常盤座	(御所桜堀川夜討)	弁慶上使(里)。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	(不明)
△	一九〇九	明治42	京都 岩神座	(御所桜堀川夜討)	弁慶上使(明石)。	
		8/18 8/21			弁慶(染)。 ※大阪文楽座、染太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇九	明治42	京都 南座	(御所桜)	(古靱=清六)。 ※大阪文楽一座、越路太夫・南部太夫・鶴尾太夫・常子太夫・古靱太夫ほか。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
	一九〇九	明治42	御霊文楽座	御所桜堀川夜討	弁慶上使のだん(中源=勝太郎、切越路=吉兵衛)、夜討のだん(富、其、鶴尾、津留=一日替り広栄/吉介)。 ※「十一月一日ヨリ十二月七日マデ卅六日間(卅七日間)」(『義太夫年表 明治篇』)。 ※三味線は『浄瑠璃雑誌』第81号に拠る。	奥方花の井(伝之助)、武蔵坊弁慶(玉治)、 卿の君(紋五郎)、女房おあさ(栄三)、侍従 太郎(玉五郎)、腰元しのぶ(紋枝)。
△	一九〇九	明治42	角座	(御所桜)	三(角)。 ※堀江座連による「浄瑠璃会」。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
△	一九一〇	明治43	名古屋 千歳座	(御所桜)	三(二葉)。 ※呂太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一〇	明治43	京都 明治座	(御所桜)	三(古靱=清六)。 ※大阪文楽一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一〇	明治43	名古屋 末広座	(御所桜)	弁慶上使(鏝=仙之助)。 ※大隅太夫・団平一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一〇	明治43	名古屋 御園座	(御所桜)	弁慶上使(古靱=清六)。 ※大阪文楽座附竹本越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一〇	明治43	京都 南座	(御所桜堀川夜討)	弁慶上使(古靱=清六)。 ※文楽一座、越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
△	一九一〇	明治43	8/23	京都 歌舞伎座	(御所桜)	弁慶上使(静)。 ※南部太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一〇	明治43	9/1	京都 岩神座	(御所桜堀川夜討)	弁慶上使(源)。 ※南部太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一〇	明治43	10/18	京都 明治座	(御所桜)	三(七五三)。 ※大阪文楽一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一〇	明治43	12/11	名古屋 御園座	(御所桜)	(七五三=綱造)。 ※大阪文楽座、越路太夫・七五三太夫・古靱太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一〇	明治43	12/13	名古屋 千歳座	(弁慶)	弁慶(小靱)。 ※豊竹薩摩太夫・小靱太夫・薩喜太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一一	明治44	3/22	名古屋 御園座	(御所桜堀川夜討)	弁慶上使(時=鶴太郎)。 ※竹本南部太夫一座。素浄瑠璃。 ※『御園座七十年史』、『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一一	明治44	7/7	京都 歌舞伎座	(御所桜)	(古靱=清六)。 ※文楽一座、越路一行。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一一	明治44	8/3	浪花座	(御所桜堀川夜討)	弁慶上使(古靱)。	
		8/13	(御所桜)		弁慶上使(越路)。 ※文楽座連中による「浄瑠璃大会」。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。		
△	一九一一	明治44	9/4	京都 南座	(御所桜)	三(越路=吉兵衛)。 ※文楽一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一一	明治44	9/11	京都 岩神座	(御所)	三(越路)。 ※越路一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一一	明治44	10/8	名古屋 末広座	(御所桜堀川夜討)	弁慶上使(三笠=団次郎)。	
		10/12	弁慶上使(伊佐=吉四郎)。 ※「大阪堀江座大浄瑠璃」の内。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。				
△	一九一一	明治44	10/14~	名古屋 吾妻座	(御所桜堀川夜討)	弁慶上使。 ※大阪初上り 吉田清五郎一座。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	(不明)

「御所桜堀川夜討」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九一	明治44	12/17	名古屋 御園座	(御所桜) 弁慶上使(古靱)。 ※越路太夫・南部太夫一行。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一	明治45	4/11	京都 開盛座	(御所) 三(米)。 ※近松座若手連中。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一	大正1	12/2	東京 新富座	(御所桜堀川夜討) 弁上(古靱)。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	
△	一九一	大正2	2/13	京都 南座	(御所桜堀川夜討) 弁慶上使(組栄)。 ※大阪近松座引越し、大隅一派。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一	大正2	2/22	名古屋 末広座	(御所桜) (明石)。	
			2/24		(御所桜堀川夜討) 弁慶上使(組栄=広市)。 ※大隅太夫・団平、伊達太夫・徳太郎、錦太夫・仙市、ほか。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
	一九一	大正2	5/10~	近松座	御所桜堀川夜討一幕 弁慶上使のだん(菅=*竹三郎、此所人形出遣ひ大道具にて御覧に入申候)。 ※「予告広告ハ五月一日初日。大隅、弥、錦、静、団平、助三郎、源吉、八助、仙市、団勇らの休場、それに新作に手間どり初日十日に繰下げ。六月六日打上げ」(『義太夫年表 大正篇』)。	妻花の井(玉市)、武蔵坊弁慶(玉蔵)、郷ノ君(小伊三郎)、おわさ(文五郎)、侍従太郎(政亀)、こし元しのぶ(玉米)。
△	一九一	大正2	6/21~26	東京 有楽座	(御所桜堀川夜討) 弁慶上使。 ※近松座。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	
△	一九一	大正2	7/3	京都 京都座	(御所) 三(古靱)。	
			7/7		三(越路)。 ※大阪文楽座連、越路太夫・吉兵衛。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一	大正2	8/22	広島 寿座	(御所) 三(源=勝市)。 ※越路一座。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	
	一九一	大正2	10/26~	御霊文楽座	御所桜堀川夜討 弁慶上使のだん(切古靱=*清六)。 ※「二十三日間、十一月十六日打上げ」(『義太夫年表 大正篇』)。	妻花ノ井(玉七)、武蔵坊弁慶(玉治郎)、郷ノ君(三吾)、おわさ(栄三)、侍従太郎(玉五郎)、こし元しのぶ(玉吉)。
△	一九一	大正2	11/9	名古屋 帝国座	(御所桜) 弁慶上使(米)。 ※近松座、竹本伊達太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	

「御所桜堀川夜討」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
△	一九一三	大正2	11/19	京都 明治座	(御所桜堀川夜討)	弁慶上使のだん(源=勝市)。 ※文楽一座。素浄瑠璃。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事、『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一三	大正2	12/4	東京 新富座	(御所桜堀川夜討)	弁上(源=勝市)。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	
△	一九一三	大正2	12/10	東京 明治座	(御所桜堀川夜討)	弁上(静=源吉)。 ※近松座。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	
△	一九一三	大正2	12/13	名古屋 御園座	(御所桜堀川夜討)	弁慶上使(源)。 ※竹本越路太夫・野沢吉兵衛一行。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一四	大正3	7/11	京都 南座	(御所桜)	三(古靱)。 ※大阪文楽一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一四	大正3	7/19	名古屋 御園座	(御所桜堀川夜討)	弁慶上使(古靱=清六)。 ※竹本越路太夫一座。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一四	大正3	9	東京 有楽座	(御所桜堀川夜討)	弁上(菅=吉作)。 ※近松座。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	
△	一九一四	大正3	12/9	名古屋 御園座	(御所桜堀川夜討)	弁慶上使(源)。 ※大阪文楽座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一五	大正4	7/5	京都 南座	(御所桜)	三(古靱=清六)。 ※大阪文楽座、越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一五	大正4	7/13	浪花 座	(御所桜)	弁慶上使(古靱=清六)。 ※「浄瑠璃大会」の内。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』、『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	
△	一九一五	大正4	7/17	名古屋 御園座	(御所桜)	弁慶上使(源=勝市)。 ※越路太夫一行。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一五	大正4	12/3	名古屋 御園座	(御所桜堀川夜討)	弁慶上使(源=勝市)。 ※大阪御霊文楽座、竹本越路太夫一座。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	(不明)
△	一九一五	大正4	12/12	名古屋 末広座	(御所桜堀川夜討)	弁慶上使(静)。 ※竹本伊達太夫一座。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	(不明)

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
△	一九一五	大正4	12/16	東京 新富座	(御所)	三(源=勝市)。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	
△	一九一六	大正5	5/13	名古屋 末広座	(御所桜堀川夜討)	弁慶上使(出羽=団二郎)。 ※竹本春子太夫・鶴沢寛六等外十数名の大一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
	一九一六	大正5	7/2	京都 南座	御所桜	弁慶上使の段(源=勝市)。 ※大阪文楽座引越、竹本越路太夫一座。素浄瑠璃。	
△	一九一六	大正5	7/7	浪花座	(御所桜)	三(角)。 ※竹本朝太夫・豊沢松太郎、近松座、錦・弥・角太夫ほか。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
△	一九一六	大正5	8/1 8/6	京都 明治座	(御所桜)	弁慶上使(角)。 三段目(弥国)。 ※竹本朝太夫一行。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一六	大正5	8/10	名古屋 末広座	(御所桜堀川夜討)	弁慶上使(角=新造)。 ※東京 竹本朝太夫・豊沢松太郎一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一六	大正5	12/3	東京 歌舞伎座	(弁慶上使)	(古靱=清六)。 ※文楽座、竹本越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『歌舞伎座百年史』に拠る。	
△	一九一七	大正6	1/13	堀江座	(御所桜堀川夜討)	弁慶上使(角)。 ※豊沢新之助改新三郎名披露会。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
	一九一七	大正6	5/1~	京都 竹豊座	御所桜堀川夜討	弁慶使者のだん(春登、角=*兵吉)。	妻花の井(三郎)、武蔵坊弁慶(辰五郎)、卿の君(辰三郎)、おわさ(小兵吉)、待従太郎(辰十郎)、こし元しのぶ(東三郎)。
△	一九一七	大正6	5/1	名古屋 末広座	(御所桜堀川夜討)	弁慶上使(静=芳之助)。 ※豊竹古靱太夫・鶴沢清六一行。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一七	大正6	7/8	京都 南座	(御所桜)	弁慶上使の段(源=勝市)。 ※竹本越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一七	大正6	7/12	名古屋 末広座	(御所桜堀川夜討)	弁慶上使(角=兵吉)。 ※近松座、竹本錦太夫・竹本角太夫一行。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一七	大正6	12/3	東京 歌舞伎座	(御所)	三(源=勝市)。 ※大阪文楽座浄瑠璃一座。 ※『歌舞伎座百年史』に拠る。	

「御所桜堀川夜討」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九一七	大正6	12/19	名古屋御園座	(御所桜堀川夜討) 弁慶上使(源)。 ※竹本越路太夫一座。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	(不明)
△	一九一八	大正7	7/1~	京都竹豊座	(弁慶上使) ※新聞の予告による。或いは予告のみか。番付見当らず興行中も広告や記事なし。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	
△	一九一八	大正7	7/15	名古屋御園座	(御所桜堀川夜討) 弁慶上使(源)。 ※竹本越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一八	大正7	7/28	京都南座	(御所) 三(源)。 ※大阪文楽座引越、越路一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一八	大正7	8/6	中座	(御所桜堀川夜討) 弁慶上使(古靱=清六)。 ※文楽座、越路太夫一座による「浄瑠璃大会」。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
△	一九一八	大正7	9/6	北劇場	(御所桜) 三(角)。 ※文楽座太夫連による「涼み浄瑠璃」の内。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
△	一九一八	大正7	12/6	東京歌舞伎座	(御所) 三(源=勝市)。 ※大阪文楽座、竹本越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『歌舞伎座百年史』に拠る。	
	一九一九	大正8	1/26~	京都竹豊座	御所桜堀川夜討 弁慶上使のだん(時)。	妻花の井(文太郎)、武蔵坊弁慶(辰五郎)、 卿の君(伊三子)、女房おわさ(扇太郎)、侍 従太郎(光造)、娘しのぶ(光之助)。
△	一九一九	大正8	7/6	名古屋御園座	(御所桜堀川夜討) 弁慶上使(静)。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	(不明)
△	一九一九	大正8	7/9	京都南座	(御所桜) 弁慶上使(叶=叶)。 ※大阪文楽座引越、竹本越路太夫。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
	一九一九	大正8	10/13~	京都竹豊座	御所桜堀川夜討 弁慶使者のだん(角)。	奥方花の井(当治郎)、武蔵坊弁慶(徳丸)、 おわさ(小兵吉)、侍従太郎(新三郎)、こし 元しのぶ(玉米)。
△	一九一九	大正8	12/1	東京歌舞伎座	(弁慶上使) (源=勝市)。 ※大阪文楽座浄瑠璃大一座。 ※『歌舞伎座百年史』に拠る。	
△	一九一九	大正8	12/19	名古屋御園座	(御所桜堀川夜討) 弁慶上使(沢(ママ))。 ※竹本越路太夫一座。源太夫の間違いか。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	(不明)

## 「御所桜堀川夜討」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
△	一九二〇	大正9	7/7	中座	(御所桜堀川夜討)	弁慶上使(越路=吉兵衛)。 ※文楽座連中による「浄瑠璃会」。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
△	一九二〇	大正9	7/25	名古屋御園座	(御所桜堀川夜討)	弁慶上使(孫(ママ))。 ※越路一座。源太夫の間違いか。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	(不明)
△	一九二〇	大正9	8/2	京都南座	(御所桜)	弁慶上使(源=団六)。 ※大阪文楽座引越、越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九二一	大正10	7/5	京都南座	(御所桜)	弁慶上使の段(源=勝市)。 ※大阪文楽一座引越し。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九二一	大正10	7/14~19	東京有楽座	(御所桜堀川夜討)	弁上(古靱=清六)。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	弁慶(玉蔵)、おわさ(文五郎)、侍従(文作)。
△	一九二一	大正10	7/24	中座	(御所)	三(源=勝市)。 ※文楽座による「浄瑠璃大会」。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
△	一九二一	大正10	8/1	名古屋御園座	(御所桜)	(源=勝市)。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	(不明)
△	一九二一	大正10	12/10	名古屋末広座	(御所桜堀川夜討)	弁慶上使(古靱=清六)。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	(不明)
△	一九二二	大正11	7/15	名古屋末広座	(御所桜堀川夜討)	弁慶(源=勝市)。 ※大阪文楽座。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	(不明)
△	一九二二	大正11	7/27	京都市中座	(御所)	三(常子=寛市)。 ※大阪文楽座若手連引つ越し。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九二二	大正11	8/2	浪花座	(御所桜堀川夜討)	弁慶上使(源=勝市)。 ※文楽座連中による「浄瑠璃大会」。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
△	一九二二	大正11	8/12	京都南座	(御所桜堀川夜討)	弁慶上使(源=勝市)。 ※文楽座引越し、津太夫・古靱太夫ほか。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九二二	大正11	12/9	東京新富座	(御所桜堀川夜討)	弁上(源=勝市)。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	



西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九二三	大正12	4/1~	御霊文楽座	邯鄲の枕	島原揚屋のだん(かけ合 古靱・静・つばめ・鏝・叶=広助改 名庭絃阿弥・新左衛門・叶・芳之助・猿二郎・猿太郎・仙糸・竹三郎・広太郎・浅造・友治郎)。 ※角書「通ひ曲輪の／全盛は／春の始めの／かりの夢」。 ※「豊澤廣助師去る三月東都近衛公爵家より古式の服装及由緒ある名庭絃阿弥の名を拝領せられたる御披露を仕り度殊更口上一幕を差加へ続いて改名記念の為の古曲「邯鄲の枕」を初めて上場仕り廣助師には名庭絃阿弥として門弟一同と共に出演致される事と相成り」(番付口上)。 ※「二十三日間」(『義太夫年表 大正篇』)。	
一九二三	大正12	5/1~	御霊文楽座	御所桜堀川夜討	弁慶上使のだん(中 静、切 津)。 ※「二十三日間」(『義太夫年表 大正篇』)。	妻花の井(玉七)、武蔵坊弁慶(文三)、卿の君(文作)、おわさ(栄三)、侍従太郎(政亀)、こし元しのぶ(簗助)。
△一九二三	大正12	8/1	浪花座	(御所桜堀川夜討)	弁慶上使(源=勝市)。 ※文楽座連中による「浄瑠璃大会」。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
一九二三	大正12	12/1~	京都 新京極文楽座	御所桜堀川夜討	弁慶上使のだん(中 源路=浅造、切 源=勝市)。	妻花の井(三郎)、武蔵坊弁慶(玉次郎)、卿の君(当次郎)、おわさ(小兵吉)、侍従太郎(兵十郎)、こし元しのぶ(光之助)。
△一九二四	大正13	7/16	中座	(御所桜堀川夜討)	弁慶上使(静=芳之助)。 ※文楽座連中による「浄瑠璃演奏会」。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
△一九二四	大正13	8/14	四国(撫養)	(御所)	三(源路)。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	
△一九二四	大正13	8/18	京都 南座	(御所桜)	弁慶上使(静=芳之助)。 ※大阪文楽。素浄瑠璃。津太夫紋下清六改名披露。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
一九二五	大正14	1/2~	御霊文楽座	御所桜三段目	弁慶上使のだん(切 角=*猿糸)。 ※「二十四日間」(『義太夫年表 大正篇』)。	奥方花の井(玉七)、武蔵坊弁慶(文三)、卿の君(市松)、おわさ(栄三)、侍従太郎(玉次郎)、こし元しのぶ(扇太郎)。
△一九二五	大正14	8/12	中座	(御所桜堀川夜討)	弁慶上使(静=吉弥)。 ※文楽座連中による「涼み素浄瑠璃」。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
一九二五	大正14	9/17~19	京都 南座	御所桜堀川夜討	弁慶上使のだん(辰=金弥、切 古靱=清六)。	妻花ノ井(玉七)、武蔵坊弁慶(玉次郎)、京の君(玉米)、母おわさ(文五郎)、侍従太郎(政亀)、腰元しのぶ(文作)。

「御所桜堀川夜討」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
一九二五	大正14	10/15~	京都 新京極文楽座	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段(中 陸路=猿二郎、切 角=猿系)。 ※「(新京極文楽座)是にて閉場」(『義太夫年表 大正篇』)。	妻花の井(万次郎)、武蔵坊弁慶(兵十郎)、 卿の君(紋枝)、おわさ(小兵吉)、侍従太郎 (利男)、こし元しのぶ(文之助)。	
△	一九二五	大正14	11/28カ	高知	(御 所) 三(鏡)。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。		
△	一九二六	大正15	1/29	京都 都 座	(御所桜堀川夜 討) 弁慶上使の段(鷹=小庄)。 ※大阪文楽座、竹本文字太夫・竹本相生太夫ほか。竹本文字太夫襲名 披露興行。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。		
△	一九二六	大正15	6/25	京都 南 座	(御所桜堀川夜 討) 弁慶上使の段(源=仙系)。 ※文楽座引越し、豊竹古鞠太夫・竹本土佐太夫ほか。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。		
	一九二六	大正15	8/6~8	東京 歌 舞 伎 座	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段(鏡=団伊三、静=吉弥)。 妻花の井(玉徳)、武蔵坊弁慶(玉松)、卿の 君(玉米)、おわさ(小兵吉)、侍従太郎(玉 七)、腰元しのぶ(簗助)。	
△	一九二六	大正15	12/12~16	名古屋 御 園 座	(御所桜堀川夜 討) 弁慶上使の段(静=団六)。 ※素浄瑠璃。 ※『御園座七十年史』に拠る。		
	一九二七	昭和2	3/1~23	弁 天 座	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段(中 つばめ=勝市、切 静改め 大隅=道八)。 ※竹本静太夫改め四代竹本大隅太夫(『文楽興行記録昭和篇』)。 ※千種楽は『松竹関西演劇誌』に拠る。	妻花の井(扇太郎)、武蔵坊弁慶(玉松)、卿 の君(光之助)、女房おわさ(小兵吉)、侍従 太郎(玉七)、こし元しのぶ(紋十郎)。
△	一九二七	昭和2	7/22	豊橋 東 雲 座	(御所桜堀川夜 討) 弁慶上使の段(つばめ=勝市)。 ※大阪文楽座巡業(7月1~23日、京都・神戸・名古屋・豊橋)の内。 ※「参陽新報」(7月19~21日)、「豊橋新報」(7月20~23日)、 「豊橋日日新聞」(7月20~22日の広告)に拠る。		
△	一九二七	昭和2	8/27	東京 歌 舞 伎 座	(御所桜堀川夜 討) 弁上(源=仙系)。 ※大阪文楽座義太夫一座。 ※『歌舞伎座百年史』に拠る。		
△	一九二七	昭和2	12/11	東京浅草 宮 戸 座	(御 所 桜) 三段目(さ路=猿若)。 ※大日本義太夫因会大会。 ※『浄瑠璃雑誌』第265号に拠る。		
	一九二七	昭和2	12/22	浪 花 座	(御 所 桜) 弁慶上使の段(和泉=友造)。 ※若手素浄瑠璃。		
	一九二八	昭和3	1/18~24	京都 南 座	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段(中 島=綱右衛門、切 源=仙系)。 ※千種楽は「京都日出新聞」(1月24日)、『浄瑠璃雑誌』第265号に 拠る。	妻花の井(扇太郎)、武蔵坊弁慶(玉松)、卿 の君(栄三郎)、女房おわさ(紋十郎)、侍従 太郎(玉七)、こし元しのぶ(光之助)。

「御所桜堀川夜討」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九二八	昭和3	3/3~4	豊橋 東雲座	(御所桜) 三段目(源路=清二郎)。 ※素浄瑠璃。 ※「豊橋日日新聞」(3月2・4日の記事、3月2日の広告)、「豊橋新報」(3月2~4日の記事、3月2日の広告)、「参陽新報」(3月3~4日の記事、3月2日の広告)に拠る。	
△	一九二八	昭和3	6/25	神戸 八千代座	(御所桜堀川夜討) 弁上(つばめ)。 ※若手幹部連の素浄瑠璃。 ※「神戸新聞」(6月23~25日の記事、6月23~26日の広告)に拠る。	
△	一九二八	昭和3	7/2	金沢 尾山倶楽部	(御所桜堀川夜討) 弁慶上使(源=仙糸)。 ※竹本土佐太夫一行巡業(7月1~13日、北陸)の内。素浄瑠璃。 ※「北国新聞」(6月28・30日・7月1・3~5日)に拠る。	
△	一九二八	昭和3	7/16	神戸 八千代座	(御所桜堀川夜討) 弁上(源)。 ※文楽中堅花形の大一座。素浄瑠璃。 ※「神戸新聞」(7月12・14~15・17~18日の記事、7月12~18日の広告)に拠る。	
	一九二八	昭和3	8/17	浪花座	(御所桜堀川夜討) 弁慶上使の段(つばめ=猿太郎)。 ※文楽座若手素浄瑠璃。	
	一九二八	昭和3	11/1~5	京都 南座	御所桜堀川夜討 弁慶上使の段(中鏡=団六、切古靱=清六)。	妻花ノ井(扇太郎)、武蔵坊弁慶(玉松)、卿ノ君(文之助)、女房おわさ(紋十郎)、侍従太郎(門造)、こし元しのぶ(光之助)。
	一九二八	昭和3	12/6~10	東京 新橋演舞場	御所桜堀川夜討 弁慶上使の段(中源路=勝三郎、切鑊=新左衛門)。	妻花の井(扇太郎)、武蔵坊弁慶(玉松)、卿の君(紋太郎)、女房おわさ(紋十郎)、侍従太郎(門造)、こし元しのぶ(光之助)。
	一九二九	昭和4	1/5~7	神戸 八千代座	御所桜堀川夜討 弁慶上使の段(中相生=芳之助、切津=友次郎)。	妻花の井(扇太郎)、武蔵坊弁慶(玉松)、卿の君(文作)、女房おわさ(文五郎)、侍従太郎(玉七)、こし元しのぶ(光之助)。
△	一九二九	昭和4	1/18	東京 三越ホール	(御所) (巖=吉松郎・奥猿三郎)。 ※第3回浄瑠璃研究会。 ※『浄瑠璃世界』第301号に拠る。	
△	一九二九	昭和4	1/19~20	名古屋 御園座	御所桜堀川夜討 弁慶上使の段(中相生=芳之助、切津=友次郎)。	妻花の井(扇太郎)、武蔵坊弁慶(玉松)、卿の君(文作)、女房おわさ(文五郎)、侍従太郎(玉七)、こし元しのぶ(光之助)。

「御所桜堀川夜討」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
		1/24~25	豊橋 東雲座	(御所桜堀川夜討)	弁慶上使の段。 ※大阪文楽座巡業(1月15~25日、名古屋・岐阜・豊橋)の内。 ※「参陽新報」(1月20~25日の記事、1月22・24日の広告)、「新朝報」(1月16・20~25日の記事、1月22・24日の広告)、「豊橋新報」(1月16・19~20・22・24~25日の記事、1月23~24日の広告)、「豊橋日日新聞」(1月16・20・22~23・25日の記事、1月22・24日の広告)に拠る。	(不明)
△	一九二九	昭和4	東京丸の内 報知講堂	(御所桜堀川夜討)	弁慶上使(津賀=猿之助)。 ※第5回義太夫人形座。 ※『浄瑠璃世界』第304号に拠る。	
△	一九二九	昭和4	名古屋 御園座	(御所桜)	弁慶上使の段(中島=浅造、切鑿=新左衛門)。 ※「新愛知」(6月5日)、『御園座百年史』に拠る。	
		6/15~16	神戸 八千代座	(御所桜堀川夜討)	弁慶上使(中島=浅造、切鑿=新左衛門)。 ※大阪文楽座巡業(6月1~19日、東海・山陽)の内。 ※「神戸新聞」(6月10~15日の記事、6月9~15日の広告)に拠る。	
	一九二九	昭和4	東京 新橋演舞場	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段(切大隅=道八)。	妻花の井(紋太郎)、武蔵坊弁慶(玉松)、卿の君(文之助)、女房おわさ(紋十郎)、侍従太郎(門造)、こし元しのぶ(光之助)。
△	一九二九	昭和4	名古屋 新守座	(御所桜堀川夜討)	弁慶上使の段(つばめ=勝市)。 ※素浄瑠璃。 ※「新愛知」(9月3~8・10~11日の記事、9月6~7・9・11日の広告)、『浄瑠璃雑誌』第283号に拠る。	
		9/14~15	神戸 八千代座		弁慶上使(切大隅=道八)。 ※「神戸新聞」(9月11~15・17~18日の記事、9月13~19日の広告)に拠る。	花の井(玉七)、弁慶(玉松)、卿の君(紋太郎)、おわさ(紋十郎)、侍従(門造)、しのぶ(光之助)。
		9/21~23	高松 聚楽座		弁慶上使の段(切大隅=道八)。 ※大阪文楽座巡業(9月7~23日、名古屋・神戸・高松)の内。 ※「香川新報」(9月19~23日の記事、9月20~21・23日の広告)に拠る。	
△	一九二九	昭和4	東京 三越ホール	(御所桜堀川夜討)	弁慶(君)。 ※第9回浄瑠璃研究会。 ※『浄瑠璃雑誌』第282号に拠る。	
△	一九二九	昭和4	東京 三越ホール	(御所)	三(雛女=松四郎)。 ※第11回浄瑠璃研究会。 ※『浄瑠璃雑誌』第284・286号に拠る。	
△	一九三〇	昭和5	東京 甲子屋倶楽部	(御所桜堀川夜討)	弁慶上使(都=猿三郎)。 ※第17回浄瑠璃研究会。 ※『浄瑠璃雑誌』第291号に拠る。	

「御所桜堀川夜討」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
一九三〇	昭和5	8/20	東京 東京劇場	御所桜	弁慶上使の段（古靱＝清六）。		
		8/24		（御所）	三（文＝友衛門）。 ※素浄瑠璃。 ※24日の演目は『浄瑠璃雑誌』第295号に拠る。		
△	一九三〇	昭和5	11/25～26	京都 華頂会館	（御所桜堀川夜討）	弁慶上使。 ※「大阪朝日新聞（京都版）」（11月25日）に拠る。	
△	一九三〇	昭和5	12/2	四日市 湊座	（御所）	（亀久＝吉房）。 ※文楽座若手人形浄瑠璃。桐竹門造後見女兒一人遣い人形入。 ※『浄瑠璃雑誌』第298号に拠る。	
△	一九三〇	昭和5	12/27	日本橋倶楽部	（御所桜堀川夜討）	弁慶上使（新助）。 ※新声会。 ※『浄瑠璃雑誌』第299号に拠る。	
△	一九三一	昭和6	4/4	広島 畳屋町演舞場	（御所桜堀川夜討）	弁慶（昇光）。 ※竹本角太夫一行巡業（4月3～12日、広島・博多）の内。吉田玉徳人形入。 ※『浄瑠璃雑誌』第301号に拠る。	
			4/9	博多 柳座	（御所）	（浜靱）。 ※竹本角太夫一行巡業（4月3～12日、広島・博多）の内。吉田玉徳人形入。 ※『浄瑠璃雑誌』第301号に拠る。	
	一九三一	昭和6	5/31～ 6/21	四ツ橋文楽座	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段（中 相生＝清二郎//つばめ＝猿太郎//南部＝吉弥、切古靱＝清六）。 ※東西松竹合併統一記念興行。 ※千種楽は『文楽興行記録昭和篇』に拠る。 ※6月1日ラジオ放送（『文楽興行記録昭和篇』に拠る）。	妻花の井（扇太郎）、武蔵坊弁慶（栄三）、卿の君（紋太郎）、女房おわさ（文五郎）、侍従太郎（門造）、腰元しのぶ（文作）。
△	一九三一	昭和6	6/28	東京 市村座	（御所桜堀川夜討）	弁慶上使（東＝猿三郎）。 ※豊竹巴磨太夫改め七代豊竹巴太夫襲名披露会。 ※『浄瑠璃雑誌』第304号に拠る。	
	一九三一	昭和6	7/1～2	京都 南座	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段（切 大隅＝道八）。	妻花の井（光之助）、武蔵坊弁慶（玉松）、卿の君（紋太郎）、女房おわさ（紋十郎）、侍従太郎（門造）、腰元しのぶ（文作）。
	一九三一	昭和6	7/11～14	東京 明治座	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段（切 大隅＝道八）。	妻花の井（光之助）、武蔵坊弁慶（玉松）、卿の君（紋太郎）、女房おわさ（紋十郎）、侍従太郎（門造）、腰元しのぶ（文作）。
△	一九三一	昭和6	8/9	岡山 柳川座	（御所）	三（源路）。 ※連合浄瑠璃大会。 ※『浄瑠璃雑誌』第304号に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
△	一九三一	昭和6	秋	兵庫 兵庫倶楽部	(御所桜堀川夜討)	弁慶上使(叶美=吉季)。 ※青年太夫浄瑠璃会。 ※『浄瑠璃雑誌』第307号に拠る。	
△	一九三一	昭和6	10/1~18	地方公演 (九州・中国・四国)	(御所桜堀川夜討)	弁慶上使(小春=団六)。 ※竹本土佐太夫一行巡業。10月10日広島・寿座、18日徳島・稲荷座での公演を含む。 ※「中国新聞」(10月2・9~10日の記事、10月2・6・8日の広告)、「大阪朝日新聞(徳島版)」(10月13日)、「徳島毎日新聞」(10月15~17日)、『浄瑠璃雑誌』第306号に拠る。	(不明)
△	一九三二	昭和7	3/27	京都力 烏丸日出会館	(御所桜堀川夜討)	弁慶上使(鏡=吉左)。 ※『文楽興行記録昭和篇』書入れに拠る。	
△	一九三二	昭和7	5/5	名古屋 御園座	(御所桜堀川夜討)	弁慶上使(小春=団六)。 ※竹本鍛太夫一行巡業(5月4~14日、東海)の内。文楽座の若手による素浄瑠璃。 ※「新愛知」(5月1・3~8日)、『浄瑠璃雑誌』第312号、『御園座七十年史』に拠る。	
	一九三二	昭和7	5/25~26	神戸 松竹劇場	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段(中 越名改め 南部=吉弥、切 古靱=清六)。	妻花の井(扇太郎)、武蔵坊弁慶(玉松)、卿の君(栄三郎)、女房おわさ(紋十郎)、侍従太郎(政亀)、こし元しのぶ(文作)。
△	一九三二	昭和7	6/20	北新地演舞場	(御所桜堀川夜討)	弁慶上使(源路=吉三)。 ※花菱会。桐竹門造指導少女人形入。 ※『浄瑠璃雑誌』第313号では、北陽演舞場とする。 ※『浄瑠璃雑誌』第312・313号に拠る。	
△	一九三二	昭和7	7/7	姫路 山陽座 <竹本座>	(御所桜堀川夜討)	弁慶上使(正=新三郎)。 ※『浄瑠璃雑誌』第314号に拠る。	
△	一九三二	昭和7	8/3~4	京都 京都座	(御所桜堀川夜討)	弁慶上使の段(小春=吉左)。 ※「京都日出新聞」(7月29・31日・8月2~3・5~7日)に拠る。	妻花の井(紋太郎)、武蔵坊弁慶(玉幸)、卿の君(紋弥)、女房お己左(紋十郎)、侍従太郎(玉市)、こしもと志のぶ(光之助)。
			8/13~14	名古屋 御園座		弁慶上使の段(小春=吉弥)。 ※文楽座若手連五人会(竹本相生太夫・豊竹呂太夫・豊竹つばめ太夫・竹本南部太夫・竹本小春太夫)巡業(8月1日~下旬、近畿・東海)の内。 ※「新愛知」(8月9~13・15~16日)、『御園座七十年史』に拠る。	妻花の井(紋太郎)、弁慶(玉幸)、女房おわさ(紋十郎)。
	一九三二	昭和7	10/27	東京 東京劇場	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段(古靱=清六)。 ※素浄瑠璃。	

「御所桜堀川夜討」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
△	一九三二	昭和7	12/1	広島 寿座	(御所)	三(つばめ=芳之助)。 ※「中国新聞」(11月27日の記事、11月23・30日の広告)、『浄瑠璃雑誌』第318号に拠る。	
			12/12	長崎 みなみ座	(御所桜堀川夜討)	弁慶上使(つばめ=芳之助)。 ※大阪文楽座若手連巡業(12月1日～、広島・九州)の内。 ※「長崎日日新聞」(12月6～13日)に拠る。	
△	一九三二	昭和7	12/16～24	地方公演 (四国)	(御所桜堀川夜討)	弁慶上使(文=卯三郎)。 ※竹本津太夫一行巡業。12月20日今治・和泉座、22日西条・近松座、23日高松・大衆座での公演を含む。 ※『浄瑠璃雑誌』第319号、「海南新聞」(12月16日)、「香川新報」(12月20日)に拠る。	
△	一九三三	昭和8	2/4	松屋町鳳来館 〈竹本座〉	(御所桜堀川夜討)	弁慶(弥国)。	(不明)
			2/19	鶴橋劇場 〈竹本座〉		弁慶上使(正)。 ※竹本座巡業(2月1～19日、大阪)の内。 ※『浄瑠璃雑誌』第320号に拠る。	
△	一九三三	昭和8	2/19	浅草 並木倶楽部	(御所桜堀川夜討)	弁上(東=猿三郎)。 ※第11回浄瑠璃講究会。 ※『浄瑠璃雑誌』第321号に拠る。	
△	一九三三	昭和8	6/24	高知 堀詰座	(御所桜堀川夜討)	弁慶上使(鏡=団二郎)。	
			6/26			弁慶上使(さの=勝芳)。 ※竹本土佐太夫一行巡業(6月22～26日、高知)の内。 ※『浄瑠璃雑誌』第325号に拠る。	
	一九三三	昭和8	7/7～9	東京 東京劇場	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段(中むら=団二郎、切鑿=新左衛門)。	妻花の井(扇太郎)、武蔵坊弁慶(玉松)、卿の君(文之助)、女房おわさ(紋十郎)、侍従太郎(門造)、腰元しのぶ(光之助)。
△	一九三三	昭和8	7/14～	地方公演 (九州)	(御所桜堀川夜討)	弁上(文=卯三郎)。 ※竹本津太夫一行巡業。 ※『浄瑠璃雑誌』第325号に拠る。	
△	一九三三	昭和8	7/22～23	神戸 松竹劇場	(御所桜)	(鏡)。 ※大阪文楽座人形浄瑠璃若手花形銷夏競演大会。 ※『浄瑠璃雑誌』第326号、「神戸新聞」(7月20～23日の記事、7月22日の広告)に拠る。	
△	一九三三	昭和8	8/19	紀州田辺 常磐座	(御所桜)	三段目(長尾=広助)。 ※「紀伊新報」(8月12日)、『浄瑠璃雑誌』第326号に拠る。	

「御所桜堀川夜討」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
一九三三	昭和8	9/9~20	四ツ橋文楽座	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段（弁慶一長尾・おわさ一文・しのぶ一播路・侍従太郎一津の子・花の井一津磨・卿の君一駒若＝歌助//弁慶一相生・おわさ一小春・しのぶ一竹・侍従太郎一さの・花の井一佐久・卿の君一土佐子＝友平//弁慶一呂・おわさ一南部・しのぶ一むら・侍従太郎一叶美・花の井一長・卿の君一越名＝吉左//弁慶一つばめ・おわさ一源路・しのぶ一陸路・侍従太郎一駒尾・花の井一宮・卿の君一好＝友衛門）。 ※第2回文楽若手特別興行。各段3日ずつで交替。	妻花ノ井（光之助）、武蔵坊弁慶（玉幸）、卿の君（文二郎）、女房おわさ（扇太郎）、侍従太郎（門造）、腰元しのぶ（栄三郎）。	
一九三三	昭和8	12/13~15	東京歌舞伎座	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段（中 呂＝叶、切 古鞠＝清六）。 ※竹本義太夫二百二十年祭。 ※豊竹古鞠太夫途中休演、豊竹呂太夫が代演（『演芸画報』昭和9年1月号所載劇評に拠る）。	妻花ノ井（扇太郎）、武蔵坊弁慶（栄三）、卿の君（玉丸）、女房おわさ（文五郎）、侍従太郎（玉幸）、腰元しのぶ（栄三郎）。	
△	一九三四	昭和9	2/20	新町演舞場	（御 所 桜）	三段目（鏡＝市之助）。 ※くつわ会。 ※『浄瑠璃雑誌』第330号に拠る。	
△	一九三四	昭和9	3/24	長浜日比劇場	（御 所）	三（文＝六之助）。 ※まこと改め竹本松栄太夫披露会。桐竹門造指導少女人形入。 ※『浄瑠璃雑誌』第332号に拠る。	
△	一九三四	昭和9	3/28	福井加賀屋座	（御 所 桜）	三段目（文＝六之助）。 ※桐竹門造指導少女人形入。 ※『浄瑠璃雑誌』第332号に拠る。	
△	一九三四	昭和9	5/30	（不明）	（御所桜堀川夜討）	弁慶上使の段。 ※竹本三蝶会。女流人形浄瑠璃の夕。文楽座人形陣が出演。 ※『浄瑠璃雑誌』第334号に拠る。	花の井（藤一）、弁慶（門造）、おわさ（小兵吉）、太郎（兵次）、信夫（栄三郎）。
△	一九三四	昭和9	7/27	満州大連検番ホール	（御 所 桜）	（文＝富平）。	
		8/6	満州撫順公会堂		（文）。 ※竹本叶太夫一行巡業（7月25日～8月15日）の内。 ※『浄瑠璃雑誌』第335号に拠る。		
一九三四	昭和9	8/9~10	東京明治座	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段（呂＝芳之助）。	妻花ノ井（扇太郎）、武蔵坊弁慶（玉幸）、卿ノ君（玉男）、女房おわさ（紋十郎）、侍従太郎（門造）、腰元しのぶ（栄三郎）。	
△	一九三四	昭和9	9/15	東京木村屋別館	（御所桜堀川夜討）	弁慶（巴＝文之助）。 ※鶴沢司好発起勉強会。 ※『浄瑠璃雑誌』第335号に拠る。	
△	一九三五	昭和10	1/8	神戸御影公会堂	（御 所）	三（源路＝寛市）。 ※桐竹門造指導乙女人形入。 ※『浄瑠璃雑誌』第337号に拠る。	



「御所桜堀川夜討」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九三五	昭和10	6/4	博多 大博劇場	(御所桜堀川夜討) 弁慶上使の段(切大隅=道八)。 ※豊竹古鞠太夫一行巡業(5月28日~6月14日、中国・九州)の内。 ※『浄瑠璃雑誌』第340号に拠る。	(不明)
△	一九三五	昭和10	6/18~24	地方公演 (中国・近畿・関東)	(御所) 三(隅若)。 ※竹本陸路太夫一行巡業。桐竹門造の乙女人形入。 ※『浄瑠璃雑誌』第342号に拠る。	
	一九三五	昭和10	7/12~14	東京 明治座	御所桜堀川夜討 弁慶上使の段(切鏝=新左衛門)。	妻花の井(紋太郎)、武蔵坊弁慶(玉松改め玉蔵)、卿の君(玉男)、女房おわさ(紋十郎)、侍従太郎(門造)、こし元しのぶ(文作)。
△	一九三五	昭和10	7/13	京都カ	(御所桜) (隅若=勝之介)。 ※竹本陸路太夫一行巡業(7月11~16日、丹波)の内。竹本陸路太夫幼年時代の母校での公演。桐竹門造の乙女人形入。昼の部は子供向マチネ。 ※『浄瑠璃雑誌』第342号に拠る。	
△	一九三五	昭和10	9/25~26	京都 南座	(御所桜堀川夜討) 弁慶上使の段(中源路=喜代之助、切大隅=道八)。 ※「京都日出新聞」(9月25日)に拠る。	武蔵坊弁慶(栄三)、女房おわさ(紋十郎)。
△	一九三六	昭和11	2/4	一の宮 花岡劇場 <新義座>	(御所桜) 三(小松=勝芳)。 ※大阪新義座一行巡業(2月1~16日、東海・近畿)の内。 ※『浄瑠璃雑誌』第346号に拠る。	
△	一九三六	昭和11	3/26	京都 華頂会館	(御所桜) 弁慶上使(小松=勝芳)。 ※乙女人形入り。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
	一九三六	昭和11	10/3~	四ツ橋文楽座	御所桜堀川夜討 弁慶上使の段(中文字=広助、切津=綱造)。	妻花の井(小兵吉)、武蔵坊弁慶(玉蔵)、卿の君(文之助)、女房おわさ(文五郎)、侍従太郎(政亀)、こし元しのぶ(文作)。
△	一九三六	昭和11	11/27	大紙倶楽部	(御所桜) 三(隅若=猿若)。 ※競義会(素語り会)。 ※『浄瑠璃雑誌』第356号に拠る。	
△	一九三六	昭和11	12/9	上海 東劇	(御所桜) 三(隅栄=新之助)。 ※竹本陸路太夫一行巡業(12月7~11日、上海)の内。上海皇軍慰問公演。 ※『浄瑠璃雑誌』第356号に拠る。	
△	一九三七	昭和12	1/27	盛岡 盛岡劇場 <新義座>	(御所桜堀川夜討) 弁慶上使。 ※「岩手日報」(1月27・29日の記事、1月20・26~27日の広告)に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
		2/6	新潟 新潟劇場 〈新義座〉		※「新潟新聞」(1月24日)に拠る。		
		2/27	香川 上高瀬松竹座 〈新義座〉		※「香川新報」(3月2日)に拠る。 ※新義座巡業(1月19日～3月中旬、東海・関東・東北・北陸・四国・山陽)の内。乙女人形入。		
△	一九三七	昭和12	2/13	ラジオ放送	(御所桜堀川夜討)	弁慶上使の段(源路=清二郎)。 ※「大阪朝日新聞」「東京朝日新聞」(2月13日)に拠る。	
△	一九三七	昭和12	3/27	広島 新天劇場	(御所桜堀川夜討)	弁慶上使(隅栄)。 ※竹本鏗太夫一行巡業(3月23日～、山陽)の内。 ※『浄瑠璃雑誌』第359号に拠る。	(不明)
△	一九三七	昭和12	3/29	京都 朝日会館	(御所桜)	三段目 弁慶上使の段。 ※国粹古典芸術鑑賞会主催、文楽浄瑠璃の夕。 ※「大阪朝日新聞(京都版)」(3月29日の記事、3月28日の広告)に拠る。	
△	一九三七	昭和12	4/4～28	地方公演 (東海・関東) 〈新義座〉	(御所桜堀川夜討)	弁慶上使(叶美=勝芳)。 ※乙女人形入。4月6日長浜・日比劇場、10日竹鼻・八千代座、15日岐阜カ・付知劇場、17日飯田市・大松座、20日名古屋・中座での公演を含む。 ※『文楽興行記録昭和篇』書入れ、「名古屋新聞」(4月18・20日)に拠る。	
	一九三七	昭和12	6/1～4	東京 明治座	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段(切大隅=団六改め 寛治郎)。	妻花の井(光之助)、武蔵坊弁慶(玉幸)、卿の君(紋司)、女房おわさ(紋十郎)、侍従太郎(玉市)、こし元しのぶ(文作)。
△	一九三七	昭和12	6/7	八戸 錦座 〈新義座〉	(御所桜堀川夜討)	弁慶上使(叶美)。 ※新義座巡業(6月1日～末、関東・東北・北海道・上越・北陸・東海)の内。乙女人形入。6月25日新潟・石動末広座で同公演あり。 ※『文楽興行記録昭和篇』書入れに拠る。	
△	一九三七	昭和12	7/19	台湾 台北栄座 〈新義座〉	(御所桜堀川夜討)	弁慶上使(叶美)。 ※大阪新義座巡業(7月19日～8月2日、台湾・山陰)の内。桐竹門造指導乙女人形入。7月22日台南宮古座、25日虎尾交遊クラブ、27日基隆劇場で同公演あり。 ※『浄瑠璃雑誌』第364号、「台湾日日新報」(7月20日)、「大阪毎日新聞(台湾版)」(7月22日)、『文楽興行記録昭和篇』書入れに拠る。	

「御所桜堀川夜討」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九三七	昭和12	8/10	今里演舞場	(御所桜) 三段目 弁慶上使 (隅若=市松)。 ※若手献金興行。桐竹門造指導乙女人形入。 ※『浄瑠璃雑誌』第364号、『浄瑠璃時報』第190号に拠る。	
	一九三七	昭和12	11/1~8	新町演舞場	御所桜堀川夜討 弁慶上使の段 (切 大隅=寛治郎)。	妻花の井 (紋太郎)、武蔵坊弁慶 (玉蔵)、卿の君 (紋司)、女房おわさ (紋十郎)、侍従太郎 (門造)、腰元しのぶ (文作)。
	一九三七	昭和12	12/9~	四ツ橋文楽座	御所桜堀川夜討 弁慶上使の段 (和泉=重造//呂=寛治郎)。	妻花の井 (紋太郎)、武蔵坊弁慶 (玉幸)、卿の君 (玉男)、女房おわさ (紋十郎)、侍従太郎 (小兵吉)、腰元しのぶ (栄三郎)。
△	一九三八	昭和13	1/28	東京 東京劇場	(御所桜) (源=八造)。 ※大阪文楽座義太夫若手花形特別公演。素浄瑠璃。 ※『浄瑠璃雑誌』第368号、「東京朝日新聞」(1月26日の広告)に拠る。	
△	一九三八	昭和13	3/15	岐阜 金華劇場 〈新義座〉	(御所桜堀川夜討) 弁慶上使の段 (隅栄=綱延)。 ※大阪新義座巡業 (3月中旬、東海・北陸・近畿)の内。乙女人形娘連特別出演。 ※「岐阜日日新聞」(3月11~12・14~16日)に拠る。	
△	一九三八	昭和13	3/16	東京 鈴木演芸場	(御所桜堀川夜討) 弁慶 (都=亀造)。 ※第3回義太夫会。 ※『太棹』第94号に拠る。	
△	一九三八	昭和13	4/2	北陽演舞場 〈新義座〉	(御所桜堀川夜討) 弁慶上使の段 (隅栄=綱延)。 ※『浄瑠璃雑誌』第369・370号、「大阪毎日新聞」(3月27日)に拠る。	
△	一九三八	昭和13	5/16	中津 津久見蓬萊観 〈新義座〉	(御所桜) 弁慶上使の段 (隅栄=綱延)。 ※大阪新義座巡業 (5月7~16日、九州)の内。乙女人形入。 ※「大分新聞」(5月15日)に拠る。	
△	一九三八	昭和13	6/21	高知 堀詰座	(御所桜) 三段目 (隅若=重次郎)。 ※『浄瑠璃雑誌』第371号、「高知新聞」(6月13・15~16・19~23日)に拠る。	
△	一九三八	昭和13	6/23	下関 弁天座 〈新義座〉	(御所桜堀川夜討) 弁慶上使の段。 ※大阪新義座巡業 (6月23日~7月8日、下関・満州)の内。乙女人形入。 ※「関門日日新聞」(6月23日)に拠る。	
△	一九三八	昭和13	7/1	文具倶楽部	(御所桜) (大庫=新吉)。 ※乙女人形浄瑠璃研究会。 ※『浄瑠璃雑誌』第372号に拠る。	

「御所桜堀川夜討」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九三八	昭和13	7/1~4	東京 新橋演舞場	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段（切 古鞠＝清六）。	妻花の井（紋太郎）、武蔵坊弁慶（栄三）、卿の君（紋司）、女房おわさ（紋十郎）、侍従太郎（玉市）、こし元しのぶ（文作）。
△	一九三八	昭和13	京都 朝日会館 〈新義座〉	（御所桜堀川夜討）	弁慶上使の段（隅栄＝綱延）。 ※素浄瑠璃。 ※『浄瑠璃雑誌』第372号、「京都日出新聞」（7月25・30日）、「京都日日新聞」（7月22・30日）に拠る。	
△	一九三八	昭和13	京都 南座	（御所桜堀川夜討）	弁慶上使の段（切 文字＝吉左）。 ※つばめ太夫改め竹本織太夫・団二郎改め竹沢団六襲名披露。 ※『浄瑠璃雑誌』第373号、『昭和の南座 資料編（上）』、「京都日日新聞」（8月8・10日）に拠る。	花の井（紋太郎）、弁慶（栄三）、おわさ（文五郎）、侍従太郎（玉市）。
△	一九三八	昭和13	盛岡 盛岡劇場 〈新義座〉	（御所桜堀川夜討）	弁慶上使の段（隅栄＝綱延）。 ※大阪新義座巡業（9月中旬～10月下旬、東北・北海道）の内。新義座座付乙女会員出演。 ※「新岩手日報」（10月4日の広告）に拠る。	
	一九三八	昭和13	四ツ橋文楽座	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段（和泉＝重造//呂＝寛治郎）。	妻花の井（紋太郎）、武蔵坊弁慶（玉幸）、卿の君（玉男）、女房おわさ（紋十郎）、侍従太郎（小兵吉）、こし元しのぶ（栄三郎）。
△	一九三九	昭和14	東京 日本橋倶楽部	（御所桜）	弁慶上使（都＝猿蔵）。 ※東京南北座初春興行。 ※『文楽興行記録昭和篇』は、しのぶの人形役割を（東十郎）とする。 ※『浄瑠璃雑誌』第377号、『太棹』第101号、『文楽興行記録昭和篇』に拠る。	花の井（三郎）、弁慶（国五郎）、おわさ（池田三国）、侍従太郎（三郎）、しのぶ（国三郎）。
△	一九三九	昭和14	神戸 花隈町神港倶楽部 〈新義座〉	（御所桜堀川夜討）	弁慶上使の段（叶美＝綱延）。 ※新浄瑠璃発表会。 ※『浄瑠璃雑誌』第377号に拠る。	
△	一九三九	昭和14	神奈川 平塚劇場	（御所桜堀川夜討）	弁慶（都＝猿蔵）。 ※南北座。 ※『太棹』第103号に拠る。	おわさ（池田三国）、侍従太郎（高瀬弦之丞）、しのぶ（国三郎）。
△	一九三九	昭和14	京都 朝日会館	（御所桜堀川夜討）	弁慶上使の段（源＝八造）。 ※国粹古典芸術鑑賞会主催「第6回春季文楽浄瑠璃の夕」。 ※「京都日出新聞」「大阪朝日新聞（京都版）」（4月26日）、『浄瑠璃雑誌』第378号に拠る。	
△	一九三九	昭和14	東京 仁寿講堂 〈新義座〉	（御所桜）	（隅栄＝勝芳）。 ※大阪新義座巡業（4月～5月9日、関東・東海）の内。乙女人形入。 ※『浄瑠璃雑誌』第378号、『浄瑠璃時報』第231号に拠る。	

「御所桜堀川夜討」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
△	一九三九	昭和14	7/25~26	京都 南座	(御所桜堀川夜討)	弁慶上使(大隅=広助)。 ※「京都日出新聞」(7月16~17・21~24・26日の記事、7月16・21~24・26~27日の広告)、「京都日日新聞」(7月17・19~20・25~26日の記事、7月20~25日の広告)、「大阪朝日新聞(京都版)」(7月19日)に拠る。	弁慶(栄三)。
△	一九三九	昭和14	9/4~5	名古屋 御園座	(御所桜堀川夜討)	弁慶上使の段(津=重造)。 ※『浄瑠璃雑誌』第382号、『御園座七十年史』、「新愛知」(9月1~3・5~6日の記事、9月1~7日の広告)に拠る。	(不明)
△	一九三九	昭和14	9/26	東京 日本橋倶楽部	(御所桜堀川夜討)	弁慶(双葉=辰六)。 ※東京浄瑠璃人形芝居南北座秋季特別公演。 ※『太棹』第108号に拠る。	
△	一九三九	昭和14	12/4	大分 大分劇場	(御所桜)	(隅若)。 ※大阪文楽座、竹本大隅太夫豊沢広助一行巡業(12月3~15日、九州)の内。乙女人形入。 ※『浄瑠璃雑誌』第385号、「豊洲新報」(12月1日)、「大分新聞」(12月3日)に拠る。	
△	一九四〇	昭和15	1/11	ラジオ放送	(御所桜堀川夜討)	弁慶上使の段(源=吉弥)。 ※「大阪朝日新聞」「東京朝日新聞」(1月11日)、『浄瑠璃雑誌』第368号に拠る。	
△	一九四〇	昭和15	10/14	東京 日本橋倶楽部	(御所桜堀川夜討)	弁慶上使(都=桑造)。 ※東京浄瑠璃人形芝居第7回秋季報国公演。 ※『太棹』第119号、『浄瑠璃雑誌』第394号に拠る。	
	一九四一	昭和16	1/1~26	四ツ橋文楽座	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段(切古鞠=清六)。 ※千種楽は『文楽興行記録昭和篇』に拠る。	妻花の井(光之助)、武蔵坊弁慶(玉蔵)、卿の君(紋司)、女房おわさ(文五郎)、侍従太郎(門造)、腰元しのぶ(栄三郎)。
△	一九四一	昭和16	6/17	東京 国民新劇場	(御所桜堀川夜討)	弁慶。 ※南北座春季公演。 ※『太棹』第127号、「朝日新聞(東京版)」(6月18日)に拠る。	
△	一九四一	昭和16	10/6	東京 国民新劇場	(御所桜堀川夜討)	弁慶(都=新造)。 ※南北座秋季公演。 ※『太棹』第130号に拠る。	
	一九四一	昭和16	12/9~13	東京 新橋演舞場	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段(武蔵坊弁慶一七五三・腰元しのぶ一常子/宮・侍従太郎一司・花の井一津磨・卿の君一南次・女房おわさ一伊達/南部=綱造)。	妻花の井(紋太郎)、武蔵坊弁慶(玉蔵)、卿の君(紋司)、女房おわさ(紋十郎)、侍従太郎(玉徳)、腰元しのぶ(栄三郎)。
	一九四二	昭和17	1/1~25	四ツ橋文楽座	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段(武蔵坊弁慶一七五三・腰元しのぶ一常子/宮/越名・侍従太郎一富/干駒・妻花の井一三滝/叶美・卿の君一常子/宮/越名・女房おわさ一源/雛=綱造)。 ※二代豊竹古鞠太夫檣下披露興行。 ※千種楽は「大阪毎日新聞」(1月23日の広告)に拠る。	妻花の井(紋太郎)、武蔵坊弁慶(文作)、卿の君(門次)、女房おわさ(光之助)、侍従太郎(玉徳)、腰元しのぶ(紋司)。

## 「御所桜堀川夜討」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九四二	昭和17	8/2	小樽 第四公区事務所	(御所桜堀川夜討) 弁慶上使(重=広助)。 ※竹本重太夫・豊沢広助両氏来道歓迎義太夫大会。 ※『文楽芸術』第12号、『太棹』第138号に拠る。	
△	一九四三	昭和18	4/2	浅草 並木倶楽部	(御所桜堀川夜討) 弁慶上使(卯=和孝)。 ※義太夫古曲発表会。 ※『太棹』第141~143号、『浄瑠璃月報』第62号に拠る。	
	一九四三	昭和18	5/1~23	四ツ橋文楽座	御所桜堀川夜討 弁慶上使の段(切 大隅=清二郎)。 ※千鶴楽は「毎日新聞(大阪版)」(5月22日)、『浄瑠璃雑誌』第421号に拠る。	妻花の井(紋太郎)、武蔵坊弁慶(玉助)、卿の君(玉男)、女房おわさ(亀松)、侍従太郎(玉徳)、腰元しのぶ(紋司)。
	一九四三	昭和18	7/21~25	東京 新橋演舞場	御所桜堀川夜討 弁慶上使の段(切 大隅=清二郎)。	妻花の井(紋太郎)、武蔵坊弁慶(玉助)、卿の君(玉男)、女房おわさ(光造)、侍従太郎(玉徳)、腰元しのぶ(紋司)。
△	一九四三	昭和18	9/14	東京 すゞ本	(御所) 三(杣=松市郎)。 ※義太夫錬成道場義太夫会。 ※『浄瑠璃月報』第77号、『太棹』第148号に拠る。	
△	一九四三	昭和18	11/21	東京 寿々本	(御所桜堀川夜討) 弁上(都=新造)。 ※義太夫特選大会。 ※『浄瑠璃月報』第81号に拠る。	
	一九四四	昭和19	8/1~	四ツ橋文楽座	御所桜堀川夜討 弁慶上使の段(切 大隅=清八)。	妻花の井(小兵吉)、武蔵坊弁慶(玉助)、卿の君(常次)、女房おわさ(亀松)、侍従太郎(玉徳)、腰元しのぶ(紋司)。
	一九四五	昭和20	11/2~7	朝日会館	御所桜堀川夜討 弁慶上使の段(切 相生=吉五郎//呂=友衛門)。	花の井(常次)、武蔵坊弁慶(玉助)、卿の君(亀夫)、母おわさ(亀松)、侍従太郎(玉徳)、腰元しのぶ(紋司)。
	一九四七	昭和22	6/1~22	四ツ橋文楽座	御所桜堀川夜討 弁慶上使の段(切 相生=吉五郎//伊達=喜左衛門)。 ※千鶴楽は『松竹百年史』に拠る。	妻花の井(紋太郎)、武蔵坊弁慶(玉助)、卿の君(和夫)、女房おわさ(亀松)、侍従太郎(玉徳)、腰元しのぶ(紋之助)。
	一九四八	昭和23	3	地方公演 (中国・四国)	御所桜堀川夜討 弁慶上使の段(切 大隅=清八)。	妻花の井(和夫)、武蔵坊弁慶(亀松)、卿の君(光次)、女房おわさ(文五郎)、侍従太郎(亀三)、こし元しのぶ(紋之助)。
△	一九四八	昭和23	5/29	富山 富山座	(御所) ※姫路・北陸巡業(5月公演打上げ後~29日)の内。 ※「富山新聞」(5月23日の広告)に拠る。	(不明)
△	一九四九	昭和24	4/21~23	地方公演 (中部) <因会>	(御所桜堀川夜討) 弁慶上使。 ※「静岡新聞」(4月19・21日の広告)に拠る。	(不明)

「御所桜堀川夜討」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
△	一九四九	昭和24	4/22	瀬戸市 東海劇場 〈組合〉	(御所桜)	弁慶上使の段(前司、後源)。 ※巡業(7日間)の内。 ※「東海民生新聞」(4月19日の広告)に拠る。	(不明)
	一九四九	昭和24	5/1~6	東京 有楽座 〈因会〉	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段(切大隅=清八)。 ※豊竹山城少掾・吉田文五郎芸術院会員披露公演。 ※吉田文五郎2日より休演(『幕間』昭和24年6月号に拠る)。	妻花の井(紋司)、武蔵坊弁慶(玉助)、卿の君(光次)、女房おわさ(亀松)、侍従太郎(兵次)、こし元しのぶ(和夫)。
△	一九四九	昭和24	5/14	松江 出雲劇場 〈組合〉	(御所桜堀川夜討)	弁慶上使の段。 ※巡業(中国)の内。 ※「島根新聞(西部版)」(5月6・13日の広告)に拠る。	
△	一九四九	昭和24	6/7~8	和歌山県新宮市 日の出劇場 〈組合〉	(御所桜堀川夜討)	弁慶上使の段(前松島、後源)。 ※「紀南新聞」(6月4・8日の広告)、『三和会公演控』に拠る。	
△	一九四九	昭和24	6/20~21	神戸 湊川神社儀式殿七生館 〈組合〉	(御所桜堀川夜討)	弁慶上使(司、七五三)。 ※「神戸新聞」(6月21日)に拠る。	(不明)
	一九四九	昭和24	8~9	地方公演 (東北・北海道) 〈因会〉	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段(大隅=清八)。	妻花の井(登一)、武蔵坊弁慶(玉助)、女房おわさ(光造)、侍従太郎(兵次)、娘しのぶ(和夫)。
△	一九四九	昭和24	10/1	紀伊田辺 常盤座 〈組合〉	(御所桜)	弁慶上使の段。 ※巡業の内。 ※「紀伊民報」(9月23日・10月2日)、「紀伊新聞」(9月29日)、『三和会公演控』に拠る。	(不明)
△	一九五〇	昭和25	3/6	長崎市 西日本会館 〈組合〉	(御所桜堀川夜討)	弁慶上使の段。 ※九州巡業(15日間)の内。 ※「長崎日日新聞」(3月3日の広告)に拠る。	(不明)
	一九五〇	昭和25	3/14~18	東京 新橋演舞場 〈因会〉	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段(切大隅=清八)。	妻花の井(玉男)、武蔵坊弁慶(光造)、卿の君(光次)、女房おわさ(紋司)、侍従太郎(兵次)、こし元しのぶ(和夫)。

「御所桜堀川夜討」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九五〇	昭和25	6/1~6	東京 三越劇場 〈組合〉	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段（前 松島＝市治郎、後 七五三＝吉三郎）。	花の井（紋太郎）、武蔵坊弁慶（玉徳）、卿の君（紋一郎）、おわさ（紋十郎）、侍従太郎（作十郎）、腰元しのぶ（紋三郎）。
△	一九五〇	昭和25	ラジオ放送 〈因会〉	（御所桜堀川夜討）	弁慶上使（相生、他）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「読売新聞」（10月18日）に拠る。	
△	一九五一	昭和26	和歌山県箕島町 永楽座 〈三和会〉	（御所桜堀川夜討）	弁慶上使（松島＝燕三、つばめ＝勝太郎）。 ※『三和会公演控』、『文楽因会三和会興行記録』に拠る。	（不明）
△	一九五一	昭和26	富山 富山座 〈三和会〉	（御所桜堀川夜討）	弁慶上使の段。 ※北陸巡業（3月10～16日）の内。3月11日高岡・歌舞伎座、3月14日金沢・北国第一劇場、3月15日小松・日本館で同公演あり。 ※「富山新聞」（3月8・10日の広告）、「北日本新聞」（3月6～7日の広告）、「北国新聞」（3月7・15日の広告）、「石川新聞」（3月4・14日の広告）に拠る。	（不明）
	一九五一	昭和26	名古屋 御園座 〈因会〉	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段（津＝寛治郎）。	妻花の井（常次）、武蔵坊弁慶（玉助）、卿の君（文昇）、女房おわさ（紋司改め 玉五郎）、侍従太郎（辰造）、腰元しのぶ（文雀）。
△	一九五一	昭和26	静岡 浜松座 〈因会〉	（御所桜堀川夜討）	弁慶上使。 ※『松竹百年史』に拠る。	（不明）
	一九五一	昭和26	三越劇場 〈三和会〉	御所桜堀川夜討	弁慶上使（口 松島＝仙二郎、前 源＝叶太郎、後 七五三＝吉三郎）。 ※大阪府民劇場。	花の井（国秀）、武蔵坊弁慶（玉徳）、卿ノ君（紋七）、おわさ（紋十郎）、侍従太郎（紋之丞）、しのぶ（紋之助）。
	一九五一	昭和26	京都 南座 〈因会〉	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段（浜改め 津＝寛治郎）。	花の井（常次）、弁慶（玉助）、卿の君（玉之助）、おわさ（亀松）、侍従太郎（辰造）、しのぶ（和夫改め 文雀）。
	一九五一	昭和26	四ツ橋文楽座 〈因会〉	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段（津＝寛治郎）。	妻花の井（常次）、武蔵坊弁慶（玉助）、卿の君（光枝）、母おわさ（亀松）、侍従太郎（辰造）、腰元しのぶ（文雀）。



「御所桜堀川夜討」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九五一	昭和26	10/13~14	高知市 中央公民館 〈三和会〉	(御所桜堀川夜討) 弁慶上使の段。 ※丹後・山陰・山陽・九州巡業(9月19日~10月14日)の内。 ※「高知新聞」(10月14日の記事、10月4・6・13日の広告)、『三和会公演控』、『文楽因会三和会興行記録』に拠る。	
△	一九五二	昭和27	2/20	ラジオ放送 〈因会〉	(御所桜堀川夜討) 弁慶上使の段(綱=弥七)。 ※「朝日新聞(大阪版)」「毎日新聞(大阪版)」(2月20日)に拠る。	
△	一九五二	昭和27	4/12	松本市 第二公民館 〈三和会〉	(御所桜堀川夜討) 弁慶上使。 ※北陸・関東・東海巡業(4月9日~5月3日)の内。4月13日長野市・長野市商工会館で同公演あり。 ※「信濃毎日新聞」(4月13日の記事、4月4・7日の広告)に拠る。	(不明)
	一九五二	昭和27	9/2~11	中座 〈因会〉	御所桜堀川夜討 弁慶上使の段(津=寛治郎)。 ※近松門左衛門生誕三百年記念公演。	妻花の井(紋太郎)、武蔵坊弁慶(玉助)、卿の君(玉昇)、母おわさ(亀松)、侍従太郎(登一)、腰元しのぶ(文雀)。
	一九五二	昭和27	9/24	呉市 本願寺会館 〈三和会〉	御所桜堀川夜討 弁慶上使の段(切若=市治郎)。 ※丹後・山陽巡業(15日間)の内。9月23日岡山・岡山劇場で同公演あり(「山陽新聞」(9月21日の広告)に拠る)。	(不明)
	一九五二	昭和27	9/28	山口 旧防府商業学校講堂 〈三和会〉	御所桜堀川夜討 (弁慶一松島・おわさ一古住・しのぶ一呂賀・侍従+花ノ井一伊達路=友若)。 ※五代目吉田辰五郎襲名披露。 ※丹後・山陽巡業(19日間)の内。	花ノ井(紋之丞)、弁慶(辰五郎)、卿之君(紋七)、おわさ(紋十郎)、侍従太郎(紋四郎)、しのぶ(紋二郎)。
△	一九五二	昭和27	10/21	大分 中津市東映劇場 〈三和会〉	(御所桜堀川夜討) 弁慶上使(掛合)。 ※九州・四国巡業(19日間)の内。10月11日熊本・歌舞伎座で同公演あり。 ※『文楽興行記録昭和篇』書入れ、「熊本日日新聞」(10月11日の記事と広告)に拠る。	(不明)
△	一九五三	昭和28	4/4	敦賀市 国際劇場 〈三和会〉	(御所桜堀川夜討) 弁慶上使の段。 ※北陸・山陽・九州巡業の内。4月5日福井市・国際劇場、6日富山・富山座、8日金沢市・北国第一劇場で同公演あり。 ※「福井新聞」(4月1・3~5日の広告)、「富山新聞」(4月4・6日の広告)、「北国新聞」(4月5日の記事、4月7日の広告)に拠る。	(不明)
	一九五三	昭和28	5/2~24	四ツ橋文楽座 〈因会〉	御所桜堀川夜討 弁慶上使の段(中織の=吉三郎、切山城少掾=藤蔵)。 ※三代目竹本津太夫追善興行。 ※千鶴楽は「毎日新聞(大阪版)」(5月23日)に拠る。	妻花の井(紋太郎)、武蔵坊弁慶(玉助)、卿の君(小玉)、女房おわさ(文五郎)、侍従太郎(玉男)、腰元しのぶ(光次)。

「御所桜堀川夜討」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九五三	昭和28	5/30	東京 三越劇場 〈三和会〉	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段（若＝綱造）。 ※第41回三越名人会。	
一九五三	昭和28	6/29～	地方公演 （関東・東北） 〈三和会〉	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段（前 松島＝八助、後 つばめ＝勝太郎）。 ※21日間。	花の井（国秀）、弁慶（辰五郎）、卿の君（紋四郎）、おわさ（紋十郎）、侍従太郎（紋市）、腰元しのぶ（紋二郎）。
△一九五三	昭和28	10/30	静岡 沼津産業会館 〈三和会〉	（御所桜堀川夜討）	弁慶上使の段。 ※東海道巡業（8日間）の内。11月5日前橋市・群馬会館、11月6日長野市・長野商工会館で同公演あり。 ※「静岡民報」（10月28日の広告）、「上毛新聞」（11月6日の記事、11月1日の広告）、「信濃毎日新聞」（10月19日の広告）に拠る。	（不明）
一九五三	昭和28	12/8～13	東京 三越劇場 〈三和会〉	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段（弁慶一松島・おわさ一古住・しのぶ一呂賀・侍従＋花の井一伊達路＝友若）。 ※文楽三つ和会5周年記念公演。	花の井（国秀）、弁慶（辰五郎）、卿の君（勘之助）、おわさ（紋之助）、侍従太郎（紋市）、腰元しのぶ（一日替り 紋寿／紋弥）。
一九五三	昭和28	12/23～27	東京 新橋演舞場 〈因会〉	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段（津＝寛治郎）。	妻花の井（淳造）、武蔵坊弁慶（玉助）、卿の君（小玉）、女房おわさ（玉五郎）、侍従太郎（紋太郎）、娘しのぶ（玉昇）。
一九五四	昭和29	1/25～31	三越劇場 〈三和会〉	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段（若＝綱造）。	花の井（紋之丞）、武蔵坊弁慶（辰五郎）、卿の君（勘之助）、おわさ（紋十郎）、侍従太郎（紋市）、腰元しのぶ（紋寿／紋弥）。
△一九五四	昭和29	2/6	大阪毎日会館 〈三和会〉	（御所桜堀川夜討）	弁慶上使の段（若＝綱造）。 ※大阪市民実験劇場、友の会第34回観賞会。 ※「大阪市民実験劇場」第29・30号に拠る。	花の井（紋之丞）、武蔵坊弁慶（辰五郎）、卿の君（勘之助）、おわさ（紋十郎）、侍従太郎（紋市）、腰元しのぶ（紋寿／紋弥）。
△一九五四	昭和29	3/20	姫路 姫路市公会堂 〈三和会〉	（御所桜）	弁慶上使の段。 ※中国・九州巡業（3月20日～4月11日）の内。 ※「神戸新聞（姫路版）」（3月13・21日）に拠る。	（不明）
一九五四	昭和29	10/1	岡山 葦川会館 〈三和会〉	（御所桜堀川夜討）	弁慶上使の段（弁慶一松島・侍従太郎一司・花の井一呂賀・しのぶ一小松・おわさ一古住＝仙二郎）。	花の井（紋之丞）、弁慶（辰五郎）、卿の君（紋四郎）、おわさ（紋之助）、侍従太郎（紋市）、腰元しのぶ（紋寿）。

「御所桜堀川夜討」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
		10/2	広島 福山市立南小 学校 〈三和会〉		弁慶上使の段（弁慶＝松島・侍従太郎＋花の井＝呂賀・しのぶ＝小松・おわさ＝古住＝仙二郎）。 ※中国巡業の内。	花の井（紋之丞）、弁慶（辰五郎）、京の君（紋四郎）、おわさ（紋之助）、侍従太郎（紋市）、しのぶ（紋寿）。
一九五五	昭和29	12/17～19	神戸 八千代劇場 〈因会〉	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段（綱＝弥七）。	妻花の井（文昇）、武蔵坊弁慶（亀松）、卿の君（常次）、女房おわさ（玉五郎）、侍従太郎（紋太郎）、娘しのぶ（文雀）。
一九五五	昭和30	1/25～27	名古屋 御園座 〈因会〉	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段（伊達＝八造）。	妻花の井（文昇）、武蔵坊弁慶（玉助）、卿の君（常次）、女房おわさ（亀松）、侍従太郎（紋太郎）、娘しのぶ（文雀）。
一九五五	昭和30	2/26～3/2	四ツ橋文楽座 〈因会〉	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段。 ※人形浄瑠璃女義太夫合同公演。	妻花の井（文昇）、武蔵坊弁慶（玉助）、卿の君（常次）、女房おわさ（亀松）、侍従太郎（光次）、娘しのぶ（文雀）。
一九五五	昭和30	3/25	新潟 新潟劇場 〈因会〉	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段（津＝寛弘）。 ※巡業（3月16日～、静岡・東北・北陸）の内。	妻花の井（紋太郎）、弁慶（玉助）、卿の君（小玉）、女房おわさ（亀松）、侍従太郎（淳造）、娘しのぶ（文雀）。
一九五五	昭和30	4/22～23	天理市 天理教館 〈因会〉	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段（津＝寛治郎）。	花の井（常次）、武蔵坊弁慶（玉助）、卿の君（文昇）、女房おわさ（亀松）、侍従太郎（兵次）、しのぶ（光次）。
一九五五	昭和30	9/1～	地方公演 （東海・他） 〈因会〉	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段（津＝寛弘）。	妻花の井（淳造）、武蔵坊弁慶（玉助）、卿の君（小玉）、おわさ（玉五郎）、侍従太郎（兵次）、娘しのぶ（文雀）。
一九五五	昭和30	10/16	福岡 大博劇場 〈三和会〉	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段（前 松島＝団作、後 源＝叶太郎）。 ※九州巡業（9月27日～）の内。	花ノ井（国秀）、武蔵坊弁慶（辰五郎）、卿ノ君（紋四郎）、おわさ（紋之助）、侍従太郎（紋之丞）、腰元しのぶ（紋弥）。
一九五五	昭和30	12/9～17	東京 三越劇場 〈三和会〉	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段（切 若＝綱造）。 ※『文楽興行記録昭和篇』の人形役割は「花の井（国秀／紋次）、卿の君（勘之助／紋若）、しのぶ（紋二郎／小紋）」（他同じ）。	花の井（国秀）、弁慶（辰五郎）、郷の君（勘之助）、おわさ（紋十郎）、侍従太郎（作十郎）、しのぶ（紋二郎）。

「御所桜堀川夜討」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九五五	昭和30	12/24	徳島 日和佐町弁天 座 〈三和会〉	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段（弁慶一松島・おわさ一古住・しのぶ一小松・侍従太郎一常子・花の井一貴世＝燕三）。	花の井（紋之丞）、弁慶（辰五郎）、卿の君（勤之助）、おわさ（紋之助）、侍従太郎（紋市）、しのぶ（紋寿）。
△一九五五	昭和30	12/25～26	徳島市 歌舞伎座 〈三和会〉	（御所桜堀川夜討）	弁慶上使の段（住）。 ※「徳島新聞」（12月20日の広告）、『三和会公演控』、『文楽因会三和会興行記録』に拠る。	（不明）
一九五六	昭和31	2/14～19	京都 祇園甲部歌舞 練場 〈因会〉	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段（津＝寛治）。	妻花の井（淳造）、武蔵坊弁慶（玉助）、卿の君（小玉）、針妙おわさ（亀松）、侍従太郎（兵次）、娘しのぶ（光次）。
一九五六	昭和31	3/3～	地方公演 （中国・九州・東海） 〈三和会〉	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段（前 松島＝仙二郎、後 つばめ＝勝太郎）。	花ノ井（紋之丞）、武蔵坊弁慶（辰五郎）、卿ノ君（勤之助）、おわさ（紋之助）、侍従太郎（作十郎）、腰元しのぶ（紋寿）。
		3/3	和歌山県御坊市 グランド劇場 〈三和会〉		弁慶上使の段（弁慶一松島・おわさ一古住・信夫一小松・侍従太郎一常子・花の井一貴代＝燕三）。	（不明）
一九五六	昭和31	4/29～5/3	名古屋 毎日ホール 〈三和会〉	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段（前 松島＝猿二郎、切 源＝叶太郎）。	花ノ井（紋之丞）、武蔵坊弁慶（勤十郎）、卿ノ君（勤之助）、おわさ（紋之助）、侍従太郎（紋市）、腰元しのぶ（紋二郎）。
一九五六	昭和31	5/4～21	地方公演 （関東・東北） 〈三和会〉	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段（前 松島＝仙二郎、後 つばめ＝勝太郎）。	花ノ井（紋之丞）、武蔵坊弁慶（辰五郎）、卿ノ君（勤之助）、おわさ（紋之助）、侍従太郎（作十郎）、腰元しのぶ（紋寿）。
一九五六	昭和31	6/17～21	東京 東横ホール 〈因会〉	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段（伊達＝八造）。 ※6月21日は別演目に差し替え。	妻花の井（常次）、武蔵坊弁慶（玉助）、卿の君（小玉）、針妙おわさ（亀松）、侍従太郎（兵次）、腰元信夫（文昇）。

「御所桜堀川夜討」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
△	一九五六	昭和31	6/18	宇都宮 栃木会館ホール 〈三和会〉	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段（前 松島＝仙二郎、後 つばめ＝勝太郎）。 ※「下野新聞」（6月17～19日の記事、6月16日の広告）に拠る。	花ノ井（紋之丞）、武蔵坊弁慶（辰五郎）、卿ノ君（勘之助）、おわさ（紋之助）、侍従太郎（作十郎）、腰元しのぶ（紋寿）。
	一九五六	昭和31	8/19	貝塚市 貝塚市公会堂 〈三和会〉	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段（弁慶＝松島・おわさ＝古住・しのぶ＝小松・侍従太郎＝常子・花の井＝貴代＝友若）。	花の井（紋之丞）、弁慶（辰五郎）、卿之君（勘之助）、おわさ（紋之助）、侍従太郎（紋市）、しのぶ（紋寿）。
	一九五六	昭和31	9/4～7	京都 祇園会館 〈三和会〉	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段（前 松島＝団作、後 源＝叶太郎）。	花ノ井（紋之丞）、弁慶（辰五郎）、卿ノ君（勘之助）、おわさ（紋之助）、侍従太郎（紋市）、腰元しのぶ（紋寿／紋弥）。
	一九五七	昭和32	4/28	兵庫 兵庫県立加古川東高等学校 〈三和会〉	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段（切 源＝叶太郎）。	妻花ノ井（紋之丞）、弁慶（辰五郎）、卿ノ君（紋寿）、母おわさ（紋之助）、侍従太郎（作十郎）、腰元しのぶ（紋四郎）。
	一九五七	昭和32	6/22～24	山口 山陽パルプ株式会社岩国工場 〈因会〉	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段（伊達改め 土佐＝藤蔵）。 ※地方公演（中国・九州）の内。伊達大夫改め七世竹本土佐大夫襲名披露。 ※日程は『松竹百年史』に拠る。	妻花の井（文昇）、武蔵坊弁慶（玉助）、卿の君（小玉）、針妙おわさ（前＝文五郎事 難波掾、後＝栄三）、侍従太郎（淳造）、娘信夫（東太郎）。
6/25			直方 国際劇場 〈因会〉				
	一九五七	昭和32	7/26～28	道頓堀文楽座 〈因会〉	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段。 ※人形浄瑠璃女義太夫大同公演。豊澤三平五十年祭。	妻花の井（玉米）、武蔵坊弁慶（玉男）、卿の君（一暢）、おわさ（文雀）、侍従太郎（玉之助）、娘信夫（玉幸）。
△	一九五七	昭和32	8/10	ラジオ放送 〈三和会〉	（御所桜堀川夜討）	弁慶上使の段（若＝燕三）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」「読売新聞（大阪版）」（8月10日）に拠る。	
△	一九五七	昭和32	10/26	ラジオ放送 〈因会〉	（御所桜堀川夜討）	弁慶上使の段（津＝寛治）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」「読売新聞（大阪版）」（10月26日）に拠る。	

「御所桜堀川夜討」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九五七	昭和32	12/3~	地方公演 (関東) 〈三和会〉	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段(前 古住=市治郎、切 源=叶太郎)。	花ノ井(国秀)、弁慶(辰五郎)、卿の君(勘之助)、おわさ(紋十郎)、侍従太郎(作十郎)、腰元しのぶ(紋弥)。
一九五七	昭和32	12/24~25	道頓堀文楽座 〈因会〉	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段(前 相子=松之輔、後 十九=団六)。 ※第8回文楽座因会若手勉強会。	花の井(亀次郎)、武蔵坊弁慶(玉昇)、卿の君(文五郎事 難波掾)、女房おわさ(東太郎)、侍従太郎(玉之助)、腰元しのぶ(一暢)。
一九五八	昭和33	2/12~16	東京 読売ホール 〈因会〉	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段(津=寛治)。	妻花の井(文昇)、武蔵坊弁慶(玉助)、郷の君(小玉)、針妙おわさ(亀松)、侍従太郎(常次)、娘しのぶ(文雀)。
一九五八	昭和33	10/5~18	地方公演 (東海道) 〈三和会〉	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段(前 松島=団作、後 源=叶太郎)。	妻花の井(国秀)、弁慶(辰五郎)、卿ノ君(勘之助)、おわさ(紋之助)、侍従太郎(作十郎)、腰元しのぶ(紋寿)。
一九五八	昭和33	10/14~23	地方公演 (九州) 〈因会〉	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段(津=寛治)。 ※日程は『松竹百年史』に拠る。	奥方花の井(小玉)、武蔵坊弁慶(玉助)、卿の君(玉幸)、針妙おわさ(栄三)、侍従太郎(淳造)、腰元しのぶ(東太郎)。
一九五八	昭和33	10/22	貝塚市 貝塚市公会堂 〈三和会〉	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段(前 松島=勝平、奥 源=叶太郎)。	花の井(紋之丞)、弁慶(辰五郎)、卿の君(勘之助)、おわさ(紋之助)、侍従太郎(紋市)、しのぶ(紋寿)。
一九五八	昭和33	10/29	大津 滋賀会館 〈三和会〉	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段(前 松島=団作、奥 源=叶太郎)。 ※大津市制60周年記念文楽公演(「滋賀日日新聞」10月20日)。	花ノ井(国秀)、武蔵坊弁慶(辰五郎)、卿ノ君(勘之助)、おわさ(紋之助)、侍従太郎(作十郎)、腰元しのぶ(紋寿)。
一九五八	昭和33	11/30	徳島 徳島市立新町 小学校体育館 〈三和会〉	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段(前 松島=仙二郎、切 源=叶太郎)。 ※豊竹若大夫芸道60年記念。	花ノ井(国秀)、武蔵坊弁慶(勘十郎)、卿ノ君(勘之助)、おわさ(紋之助)、侍従太郎(作十郎)、腰元しのぶ(紋寿)。
一九五八	昭和33	12/11~	地方公演 (東海道・東京) 〈三和会〉	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段(前 松島=団作、後 源=叶太郎)。	妻花の井(国秀)、弁慶(辰五郎)、卿ノ君(勘之助)、おわさ(紋之助)、侍従太郎(作十郎)、腰元しのぶ(紋寿)。

「御所桜堀川夜討」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九五九	昭和34	2/21~3/4	地方公演 (関東) 〈三和会〉	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段(前 松島=仙二郎、後 源=叶太郎)。	花の井(国秀)、弁慶(辰五郎)、卿ノ君(勘之助)、おわさ(紋之助)、侍従太郎(作十郎)、腰元しのぶ(紋寿)。
一九五九	昭和34	3/25~	地方公演 (東北) 〈三和会〉	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段(前 松島=仙二郎、後 源=叶太郎)。	花の井(国秀)、弁慶(辰五郎)、卿ノ君(勘之助)、おわさ(紋之助)、侍従太郎(作十郎)、腰元しのぶ(紋寿)。
△一九五九	昭和34	5/10	ラジオ放送 〈因会〉	(御所桜堀川夜討)	弁慶上使(津)。 ※「朝日新聞(大阪版)」「毎日新聞(大阪版)」(5月10日)に拠る。	
一九五九	昭和34	6/19~28	地方公演 (中国・九州) 〈三和会〉	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段(前 松島=燕三、後 源=叶太郎)。	妻花の井(国秀)、弁慶(辰五郎)、卿ノ君(紋寿)、おわさ(紋之助)、侍従太郎(作十郎)、腰元しのぶ(勘之助)。
一九五九	昭和34	7/16	栃木県足利市 興国化学講堂 〈三和会〉	御所桜堀川夜討	弁慶上使(松島=仙二郎、古住=燕三)。	花の井(国秀)、弁慶(勘十郎)、卿の君(紋弥)、母おわさ(清十郎)、侍従太郎(作十郎)、しのぶ(勘之助)。
一九五九	昭和34	10/10	和歌山 田辺市立田辺 第一小学校 〈三和会〉	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段(前 松島=仙二郎、切 源=叶太郎)。	花ノ井(国秀)、武蔵坊弁慶(辰五郎)、卿ノ君(紋七)、おわさ(紋十郎)、侍従太郎(作十郎)、しのぶ(紋寿)。
一九六〇	昭和35	2/21~25	東京 新橋演舞場 〈合同〉	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段(切 若=勝太郎)。	妻花の井(清十郎)、武蔵坊弁慶(玉助)、卿の君(小玉)、針妙おわさ(紋十郎)、侍従太郎(勘十郎)、娘しのぶ(紋二郎)。
△一九六一	昭和36	1/19	ラジオ放送 〈因会〉	(御所桜堀川夜討)	弁慶上使の段(津=寛治)。 ※「朝日新聞(大阪版)」「毎日新聞(大阪版)」「読売新聞(大阪版)」(1月19日)、『吉田文雀ノート』に拠る。	
一九六一	昭和36	3/25~ 4/15	地方公演 (東海・関東・長野) 〈三和会〉	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段(源=叶太郎)。	花の井(国秀)、弁慶(辰五郎)、卿の君(勘之助)、おわさ(紋十郎)、侍従太郎(作十郎)、しのぶ(紋弥)。

## 「御所桜堀川夜討」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九六一	昭和36	4/26	兵庫カ 大原劇場 〈三和会〉	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段（源＝叶太郎）。	花ノ井（国秀）、武蔵坊弁慶（辰五郎）、卿ノ君（勘之助）、おわさ（紋二郎）、侍従太郎（作十郎）、腰元しのぶ（紋弥）。
一九六一	昭和36	7/10～22	地方公演 （関東・東北） 〈三和会〉	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段（源＝叶太郎）。 ※『昭和36年度人形浄瑠璃因協会年報』では12～18日とする。	花の井（国秀）、弁慶（辰五郎）、卿の君（勘之助）、おわさ（紋十郎）、侍従太郎（作十郎）、しのぶ（紋弥）。
一九六一	昭和36	9/28～ 10/5	地方公演 （四国） 〈因会〉	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段（前 織の＝錦糸、後 津＝団六）。	花の井（小玉）、弁慶（玉男）、卿之君（栄之助）、おわさ（文雀）、侍従太郎（兵次）、しのぶ（一暢）。
一九六一	昭和36	10/6～21	地方公演 （東海・関東） 〈三和会〉	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段（源＝叶太郎）。 ※『昭和36年度人形浄瑠璃因協会年報』では太夫役割を竹本文字太夫とし、竹本源太夫休演のため竹本南部太夫代演との表記もある。	花の井（国秀）、弁慶（辰五郎）、卿の君（勘之助）、おわさ（紋十郎）、侍従太郎（作十郎）、しのぶ（紋弥）。
一九六二	昭和37	2/12～16	地方公演 （東京） 〈三和会〉	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段（源＝叶太郎）。	花の井（国秀）、弁慶（辰五郎）、卿の君（勘之助）、おわさ（紋十郎）、侍従太郎（作十郎）、しのぶ（紋弥）。
一九六二	昭和37	4/24	東京 本 牧 亭 〈三和会〉	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段（若子＝広若）。 ※豊竹若大夫会。	
一九六三	昭和38	1/1～10	道頓堀文楽座 〈因会〉	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段（織の改め 織＝藤蔵）。 ※竹本織の大夫改め五代目竹本織大夫襲名披露。	花の井（常次）、弁慶（玉助）、郷の君（一暢）、おわさ（栄三）、侍従太郎（兵次）、腰元しのぶ（文昇）。
一九六三	昭和38	1/29～2/3	東京 三越劇場 〈三和会〉	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段（切 源＝叶太郎）。 ※文楽三和会お別れ公演。 ※『文楽興行記録昭和篇』の「卿の君」の人形役割は「紋次／勘太郎」。	妻花の井（国秀）、弁慶（辰五郎）、卿の君（紋次）、おわさ（清十郎）、侍従太郎（作十郎）、腰元しのぶ（勘之助）。
△一九六三	昭和38	8/24～25	地方公演 （紀州）	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段（相生＝吉三郎）。 ※文楽協会資料、『昭和38年度人形浄瑠璃因協会年報』に拠る。	花の井（淳造）、弁慶（玉助）、卿の君（紋次）、おわさ（紋十郎）、侍従太郎（玉昇）、しのぶ（清十郎）。



「御所桜堀川夜討」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
△	一九六四	昭和39	5/4	兵庫 豊岡市民体育 館	(御所桜堀川夜 討)	弁慶上使。 ※竹本三蝶仙平一座。女流義太夫に人形参加。 ※文楽協会資料、『昭和39年度人形浄瑠璃因協会年報』、「文楽友の 会通信」第6号、「朝日新聞(北兵庫版)」(5月3日)に拠る。	花の井(紋寿)、弁慶(勘十郎)、卿の君(常 次)、おわさ(玉五郎)、侍従太郎(玉幸)、 しのぶ(一暢)。
	一九六四	昭和39	7/18~8/3	地方公演 (関東・甲信 越)	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段(伊達路=徳太郎)。	妻花の井(常次)、武蔵坊弁慶(玉助)、卿の 君(小紋)、女房おわさ(栄三)、侍従太郎 (辰五郎)、腰元しのぶ(小玉)。
△	一九六四	昭和39	9/25	ラジオ放送	(御所桜堀川夜 討)	三段目 弁慶上使の段(津=寛治)。 ※「朝日新聞(大阪版)」「毎日新聞(大阪版)」「読売新聞(大阪 版)」(9月25日)に拠る。	
	一九六四	昭和39	10/21~27	地方公演 (四国・九 州)	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段(津=吉兵衛)。	妻花の井(常次)、武蔵坊弁慶(玉助)、卿の 君(小紋)、女房おわさ(玉五郎)、侍従太郎 (玉男)、腰元しのぶ(文昇)。
	一九六五	昭和40	4/16~25	朝 日 座	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段(津=寛治)。	妻花の井(常次)、武蔵坊弁慶(亀松)、卿の 君(紋弥)、女房おわさ(紋十郎)、侍従太郎 (辰五郎)、腰元信夫(小玉)。
△	一九六六	昭和41	1/29~2上 旬	地方公演 (東海・関 東)	(御所桜堀川夜 討)	弁慶上使の段(文字=燕三)。 ※文楽協会資料、「文楽友の会通信」第12号に拠る。	妻花の井(文雀)、武蔵坊弁慶(亀松)、卿の 君(玉之助)、女房おわさ(栄三)、侍従太郎 (作十郎)、腰元しのぶ(紋寿)。
	一九六六	昭和41	4/22~5/2	地方公演 (東海・関 東)	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段(津=勝太郎)。	妻花の井(文雀)、武蔵坊弁慶(亀松)、卿の 君(玉之助)、女房おわさ(栄三)、侍従太郎 (作十郎)、腰元しのぶ(紋寿)。
	一九六六	昭和41	9/26~ 10/10	地方公演 (中国・九 州)	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段(津=勝太郎)。	妻花の井(一暢)、武蔵坊弁慶(玉男)、卿の 君(玉之助)、女房おわさ(紋十郎)、侍従太 郎(作十郎)、腰元しのぶ(小玉)。
	一九六六	昭和41	10/14	東京 三越劇場	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段(若=勝太郎)。 ※第4回古典音楽特別鑑賞会「語り物の系譜」。	
	一九六六	昭和41	12/7~10	地方公演 (四国)	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段(津=勝太郎)。	妻花の井(一暢)、武蔵坊弁慶(玉男)、卿の 君(玉之助)、女房おわさ(紋十郎)、侍従太 郎(作十郎)、腰元しのぶ(小玉)。
△	一九六七	昭和42	1/19	ラジオ放送	(御所桜堀川夜 討)	弁慶上使の段(文字=錦糸)。 ※「朝日新聞(大阪版)」「毎日新聞(大阪版)」「読売新聞(大阪 版)」(1月19日)に拠る。	
	一九六七	昭和42	6/2~4	京都 弥栄会館	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段(伊達路=団六、津=寛治)。 ※日程は文楽協会資料、『吉田文雀ノート』に拠る。	妻花の井(紋寿)、武蔵坊弁慶(栄三)、卿の 君(玉之助)、女房おわさ(亀松)、侍従太郎 (辰之助)、腰元信夫(簗助)。

## 「御所桜堀川夜討」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九六八	昭和43	4/14	ラジオ放送	(御所桜堀川夜討) 弁慶上使の段(津=寛治)。 ※「朝日新聞(大阪版)」「毎日新聞(大阪版)」「読売新聞(大阪版)」(4月14日)に拠る。	
	一九六八	昭和43	10/27~11/10	東京国立劇場小劇場	御所桜堀川夜討 侍従太郎館の段(伊達路=清治、津=寛治)。	妻花の井(紋寿)、武蔵坊弁慶(亀松)、卿の君(和生/昇二郎/簗太郎)、針妙おわさ(栄三)、侍従太郎(作十郎)、腰元信夫(文昇)。
△	一九六九	昭和44	9/11	東京三越劇場	(御所桜堀川夜討) 弁慶上使。 ※義太夫協会秋の公演会。 ※『昭和44年度人形浄瑠璃因協会年報』に拠る。	
△	一九六九	昭和44	10/19	香川県文化会館	(御所桜堀川夜討) 弁慶上使の段(津=寛治)。 ※古典芸能観賞の会。素浄瑠璃。 ※文楽協会資料、「四国新聞」(10月17日)に拠る。	
	一九七〇	昭和45	3/4~11	地方公演(東海・関東)	御所桜堀川夜討 弁慶上使の段(津=団六)。	妻花の井(小玉)、武蔵坊弁慶(亀松)、卿の君(福丸)、針妙おわさ(玉五郎)、侍従太郎(辰五郎)、腰元信夫(一暢)。
	一九七一	昭和46	4/4	兵庫洲本市民会館	御所桜堀川夜討 弁慶上使の段(伊達路=団六)。	花ノ井(常次)、弁慶(玉男)、卿ノ君(玉女)、おわさ(清十郎)、太郎(玉幸)、しのぶ(小玉)。
	一九七一	昭和46	6/11~23	地方公演(北陸・信越・関東)	御所桜堀川夜討 弁慶上使の段(相子=清治、津=団六)。	妻花の井(紋寿)、武蔵坊弁慶(玉昇)、卿の君(和生)、女房おわさ(簗助)、侍従太郎(紋弥)、腰元信夫(小玉)。
△	一九七二	昭和47	1/25	ラジオ放送	(御所桜堀川夜討) 弁慶上使の段(津=寛治)。 ※「朝日新聞(大阪版)」「毎日新聞(大阪版)」「読売新聞(大阪版)」(1月25日)に拠る。	
△	一九七二	昭和47	2/25	ラジオ放送	(御所桜堀川夜討) 弁慶上使(津=寛治)。 ※「朝日新聞(大阪版)」「毎日新聞(大阪版)」「読売新聞(大阪版)」(2月25日)に拠る。	
	一九七三	昭和48	4/25~5/6	朝日座	御所桜堀川夜討 弁慶上使の段(文字=吉兵衛)。 ※大近松二百五十年忌に因んで・アメリカ公演帰朝記念。 ※吉田辰五郎4月2日没、侍従太郎を吉田作十郎が代演(「新関西」(5月2日)に拠る)。吉田栄三休演のため、女房おわさを吉田文雀が代演(「朝日新聞(大阪版)」(5月1日)、「新関西」(5月2日)に拠る)。桐竹一暢5月2~5日休演のため、腰元信夫を桐竹紋寿が代演(『吉田文雀ノート』に拠る)。 ※7月7日「弁慶上使の段」テレビ放送(「朝日新聞(大阪版)」「読売新聞(大阪版)」(7月7日)、NHKクロニクルに拠る)。	妻花の井(文昇)、武蔵坊弁慶(亀松)、卿の君(和生/玉女)、女房おわさ(栄三)、侍従太郎(辰五郎)、腰元信夫(一暢)。
△	一九七三	昭和48	5/21	ラジオ放送	(御所桜堀川夜討) 弁慶上使(文字=吉兵衛)。 ※「朝日新聞(大阪版)」「毎日新聞(大阪版)」「読売新聞(大阪版)」(5月21日)に拠る。	

「御所桜堀川夜討」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九七四	昭和49	7/21	ラジオ放送	(御所桜堀川夜討) 弁慶上使の段(津)。 ※「朝日新聞(大阪版)」「毎日新聞(大阪版)」「読売新聞(大阪版)」(7月21日)に拠る。	
△	一九七四	昭和49	12/27	ラジオ放送	(御所桜堀川夜討) 弁慶上使(寛治)。 ※名人集 鶴沢寛治。 ※「朝日新聞(大阪版)」「毎日新聞(大阪版)」「読売新聞(大阪版)」(12月27日)に拠る。	
	一九七五	昭和50	3/1~26	地方公演 (近畿・東海・関東)	御所桜堀川夜討 弁慶上使の段(伊達路=錦糸)。	妻花の井(簗太郎)、武蔵坊弁慶(玉昇)、卿の君(玉女)、女房おわさ(文雀)、侍従太郎(昇二郎)、腰元信夫(小玉)。
△	一九七六	昭和51	1/2・3	ラジオ放送	(御所桜堀川夜討) 弁慶上使の段。 ※「朝日新聞(大阪版)」「毎日新聞(大阪版)」「読売新聞(大阪版)」(1月1日)に拠る。	
	一九七八	昭和53	9/4	東京国立劇場 小劇場	御所桜堀川夜討 弁慶上使の段(文字=燕三)。 ※第3回邦楽鑑賞教室「義太夫節の味わいかた」。	
△	一九七九	昭和54	9/24	神奈川県横浜市教育文化ホール	(御所桜堀川夜討) 弁慶上使の段(津=吉兵衛)。 ※竹本織大夫と人間国宝竹本津大夫の素浄瑠璃をきく会。 ※文楽協会資料、『タウン誌浜っ子』9月号に拠る。	
	一九七九	昭和54	12/4	大阪厚生年金会館中ホール	御所桜堀川夜討 弁慶上使の段(津=吉兵衛)。 ※第7回NHK上方芸能鑑賞会。 ※昭和55年2月11日テレビ放送(「朝日新聞(大阪版)」「毎日新聞(大阪版)」「読売新聞(大阪版)」(昭和55年2月11日)、文楽協会資料、NHKクロニクルに拠る)。	妻花の井(文昇)、武蔵坊弁慶(玉男)、卿の君(勤寿)、女房おわさ(簗助)、侍従太郎(文雀)、腰元信夫(一暢)。
	一九八〇	昭和55	4/13~29	朝日座	御所桜堀川夜討 弁慶上使の段(呂=叶太郎、津=吉兵衛)。 ※野沢吉兵衛休演のため、鶴沢道八が代演(文楽協会資料、『吉田文雀ノート』に拠る)。桐竹紋寿4月15~16日休演のため、妻花の井を吉田文昇が代演(『吉田文雀ノート』に拠る)。	妻花の井(紋寿)、武蔵坊弁慶(玉男)、卿の君(和生)、女房おわさ(清十郎)、侍従太郎(作十郎)、腰元信夫(勤寿)。
	一九八一	昭和56	9/27~10/3	地方公演 (東北)	御所桜堀川夜討 弁慶上使の段(英=錦弥、小松=錦糸)。 ※文化庁主催移動芸術祭。	妻花の井(紋寿)、武蔵坊弁慶(玉男)、卿の君(清之助)、針妙おわさ(清十郎)、侍従太郎(作十郎)、腰元信夫(和生/簗太郎)。
△	一九八二	昭和57	3/2	東京豊島区民センター文化ホール	御所桜堀川夜討 弁慶上使の段(英=浅造)。 ※田螺の会。素浄瑠璃。 ※『邦楽と舞踊』第33巻第5号(昭和57年5月号)に拠る。	
△	一九八三	昭和58	3/8~27	地方公演 (近畿・中国・九州・東海・関東)	御所桜堀川夜討 弁慶上使の段(伊達路=団六)。 ※豊松清十郎休演のため、女房おわさを吉田文雀が代演(『文楽』第2号に拠る)。	妻花の井(清之助)、武蔵坊弁慶(玉男)、卿の君(若玉)、女房おわさ(清十郎)、侍従太郎(玉女)、腰元信夫(和生)。

「御所桜堀川夜討」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
		3/26~27	神奈川 横浜市教育文 化ホール		弁慶上使の段（伊達路＝団六）。 ※横浜文楽。 ※『邦楽と舞踊』第34巻第5号（昭和58年5月）に拠る。	弁慶（玉男）、おわさ（紋寿）。	
△	一九八三	昭和58	11/14~29	地方公演 （東北・北海 道・関東・近 畿）	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段（松香＝錦弥、十九＝勝司）。	妻花の井（玉松）、武蔵坊弁慶（玉男）、卿の 君（清之助）、女房おわさ（文昇）、侍従太郎 （玉幸）、腰元信夫（紋寿）。
△	一九八三	昭和58	11/30	守口市民会館	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段。 ※大阪府民劇場。 ※朝日座文楽公演プログラム（昭和59年1月）に拠る。	
	一九八五	昭和60	4/7~22	国立文楽劇場	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段（中 嶋＝錦弥、切 津＝団七）。 ※国立文楽劇場開場1周年記念。文字大夫改め七世竹本住大夫襲名披 露。	妻花の井（文昇）、武蔵坊弁慶（玉男）、卿の 君（清之助）、母おわさ（簗助）、侍従太郎 （文吾）、腰元信夫（和生）。
	一九八八	昭和63	3/3~16	国立文楽劇場	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段（呂＝錦糸）。	妻花の井（勘寿）、武蔵坊弁慶（文吾）、卿の 君（幸助）、母おわさ（紋寿）、侍従太郎（玉 也）、腰元信夫（亀次）。
	一九八八	昭和63	5/6~22	東京 国立劇場 小劇場	御所桜堀川夜討	侍従太郎館の段（中 咲＝錦弥、切 住＝錦糸）。	妻花の井（紋寿）、武蔵坊弁慶（文吾）、卿の 君（清三郎／簗二郎）、母おわさ（文雀）、侍 従太郎（作十郎）、腰元信夫（和生）。
△	一九九〇	平成2	11/2	東京 サントリ ー ホール	御所桜堀川夜討	弁慶上使（住＝燕三）。 ※素浄瑠璃。 ※「七世竹本住大夫舞台年譜」に拠る。	
	一九九一	平成3	11/2	東京 国立劇場 小劇場	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段（伊達＝錦弥）。 ※第3回文楽素浄瑠璃の会（第70回邦楽公演）。国立劇場開場25周年記 念。	
	一九九二	平成4	1/3~26	国立文楽劇場	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段（中 呂＝団治、切 住＝燕三）。 ※桐竹一暢18日より休演のため、妻花の井を吉田和生が代演。	妻花の井（一暢）、武蔵坊弁慶（玉男）、卿の 君（玉英）、母おわさ（簗助）、侍従太郎（玉 幸）、腰元信夫（清之助）。
△	一九九五	平成7	9/30~ 10/1	愛媛 内子座	（御所桜堀川夜 討）	弁慶上使の段（中 松香＝清太郎、奥 十九＝清治）。 ※国立文楽劇場文楽公演解説書（平成8年4月）に拠る。	妻花の井（紋寿）、武蔵坊弁慶（玉男）、母お わさ（文雀）、侍従太郎（作十郎）、腰元信夫 （勘寿）。
	一九九五	平成7	10/3~20	地方公演 （東海・関 東・東北・北 海道・近畿）	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段（中 松香＝清太郎、奥 十九＝清治）。	妻花の井（紋寿）、武蔵坊弁慶（玉男）、卿の 君（玉英）、母おわさ（文雀）、侍従太郎（作 十郎）、腰元信夫（勘寿）。
	一九九五	平成7	10/21~25	地方公演 （近畿・中 国）	（御所桜堀川夜 討）	弁慶上使の段（中 松香＝清太郎、奥 十九＝清治）。 ※文化庁主催移動芸術祭。	妻花の井（紋寿）、武蔵坊弁慶（玉男）、卿の 君（玉英）、母おわさ（文雀）、侍従太郎（作 十郎）、腰元信夫（勘寿）。

「御所桜堀川夜討」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九九六	平成8	3/3~27	地方公演 (九州・中国・近畿・東海・関東・中部・北陸)	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段(中 松香=浅造、切 織改め 綱=清二郎)。	妻花の井(文昇)、武蔵坊弁慶(玉幸)、卿の君(勘弥)、女房おわさ(簗助)、侍従太郎(文吾/一暢)、腰元信夫(清之助)。
一九九八	平成10	1/3~25	国立文楽劇場	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段(中 松香=八介、切 十九=清治)。 ※長野オリンピック文化・芸術祭参加。	妻花の井(勘寿)、武蔵坊弁慶(文吾/玉幸)、卿の君(簗二郎)、母おわさ(文昇)、侍従太郎(一暢)、腰元信夫(清之助)。
一九九九	平成11	5/29	国立文楽劇場	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段(十九=清治)。 ※第3回文楽素浄瑠璃の会(文楽劇場第20回邦楽公演)。国立文楽劇場15周年記念。	
二〇〇二	平成14	10/26	東京国立劇場 小劇場	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段(奥 伊達=寛治)。 ※第14回文楽素浄瑠璃の会(第121回邦楽公演)。	
二〇〇二	平成14	11/3~25	国立文楽劇場	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段(中 文字久=弥三郎、奥 伊達=寛治)。	妻花の井(簗二郎)、武蔵坊弁慶(文吾)、卿の君(一輔)、母おわさ(紋寿)、侍従太郎(亀次)、腰元信夫(勘弥)。
二〇〇六	平成18	2/11~26	東京国立劇場 小劇場	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段(中 新=清志郎、切 十九=富助)。 ※竹本住大夫文化功労者顕彰記念。	妻花の井(紋臣)、武蔵坊弁慶(玉女)、卿の君(紋秀)、母おわさ(紋寿)、侍従太郎(玉輝)、腰元信夫(清三郎)。
二〇〇七	平成19	1/3~25	国立文楽劇場	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段(中 松香=宗助、奥 伊達=清治)。 ※国立劇場開場40周年記念。	妻花の井(文司)、武蔵坊弁慶(玉女)、卿の君(紋臣)、母おわさ(和生)、侍従太郎(玉輝)、腰元信夫(簗二郎)。
二〇〇七	平成19	6/23~24	国立文楽劇場	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段(弁慶=文字久・おわさ=呂勢・信夫=咲甫・侍従太郎=相子・卿の君+花の井=芳穂/呂茂=清志郎)。 ※第7回文楽若手会(文楽劇場)。国立文楽劇場文楽既成者研修発表会。 *「芳穂」の芳は異体字。	妻花の井(和右)、武蔵坊弁慶(玉志)、卿の君(勘次郎)、母おわさ(勘弥)、侍従太郎(文司)、腰元信夫(簗紫郎)。
二〇〇八	平成20	7/5	国立文楽劇場	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段(津駒=寛治)。 ※第11回文楽素浄瑠璃の会(文楽劇場第30回邦楽公演)。	
二〇〇八	平成20	9/26~ 10/21	地方公演 (近畿・東海・中国・北陸・関東・北海道・東北・中部)	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段(英=清介)。	妻花の井(簗一郎)、武蔵坊弁慶(玉也)、卿の君(紋吉)、母おわさ(勘十郎)、侍従太郎(亀次)、腰元信夫(一輔)。

「御所桜堀川夜討」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
二〇〇九	平成21	2/28~ 3/25	地方公演 (九州・中 国・東海・関 東・北陸・近 畿・四国)	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段(津駒=寛治)。	妻花の井(玉英)、武蔵坊弁慶(玉女)、卿の 君(玉翔)、母おわさ(文雀)、侍従太郎(玉 志)、腰元信夫(一輔)。
△ 二〇〇九	平成21	8/8~9	そごう劇場 (そごう心齋 橋本店)	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段(咲甫=清志郎)。 ※第12回十色会。 ※チラシに拠る。	妻花の井(紋吉/紋秀)、弁慶(勘市/玉 佳)、卿の君(勘次郎)、母おわさ(一輔/紋 臣)、侍従太郎(玉翔/簗紫郎)、腰元信夫 (玉誉/簗次)。
二〇一一	平成23	12/22~23	福岡 博多座	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段(弁慶一文字久・おわさ一咲甫・信夫一芳穂・侍従太 郎一相子・花の井一希・卿の君一咲寿=宗助)。 *「芳穂」の芳は異体字。	妻花の井(勘弥)、武蔵坊弁慶(玉女)、卿の 君(一輔)、母おわさ(和生)、侍従太郎(玉 輝)、腰元信夫(簗二郎)。
二〇一二	平成24	11/27	兵庫 兵庫県立芸術 文化センター 阪急中ホール	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段(津駒=宗助)。	妻花の井(勘弥)、武蔵坊弁慶(玉女)、卿の 君(一輔)、母おわさ(和生)、侍従太郎(玉 輝)、腰元信夫(簗二郎)。
二〇一三	平成25	7/6	国立文楽劇場	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段(英=清介)。 ※第16回文楽素浄瑠璃の会(文楽劇場第35回邦楽公演)。竹本義太夫 三〇〇回忌。	
二〇一四	平成26	2/8~24	東京 国立劇場 小劇場	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段(三輪=清麿、奥英=団七)。	妻花の井(簗二郎)、武蔵坊弁慶(玉也)、卿 の君(簗紫郎/紋秀)、母おわさ(和生)、侍 従太郎(文司)、腰元信夫(一輔)。
二〇一四	平成26	3/7	国立文楽劇場 小ホール	御所桜堀川夜討	弁慶上使の段(津駒=寛太郎)。 ※第2回若手素浄瑠璃の会(文楽劇場)。国立文楽劇場文楽既成者研修 発表会。竹本津駒太夫=賛助出演。	